

大妻 さくら フェスティバル 2023

日時: 3月18(土)10:00-16:00
場所: 大妻女子大学 千代田キャンパス

OTSUMA SAKURA FESTIVAL



大妻女子大学大学院
1年 楠瀬 由夏

主催: 大妻女子大学

後援: 千代田区、大妻コタカ記念会、大妻中学高等学校、千代田区内協力大学: 共立女子大学、城西大学、上智大学、
専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、日本歯科大学、日本大学、法政大学、明治大学

協賛: 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

巻頭あいさつ

2

千代田区長 樋口 高顕
 大妻学院 理事長／大妻女子大学 学長 伊藤 正直
 大妻さくらフェスティバル実行委員長／
 大妻女子大学地域連携推進センター所長 小川 浩
 一般財団法人大妻コタカ記念会 会長 井上 小百合

「千代田のさくらまつり」に寄せて 4

共立女子大学／共立女子短期大学 学長 川久保 清
 城西大学 学長 藤野 陽三
 上智大学 学長 曄道 佳明
 専修大学 学長 佐々木 重人
 東京家政学院大学 学長 鷹野 景子
 二松学舎大学 学長 江藤 茂博
 日本歯科大学 生命歯学部学長 沼部 幸博
 日本大学 学長 酒井 健夫
 法政大学 総長 廣瀬 克哉
 明治大学 学長 大六野 耕作

大妻さくらフェスティバル俳句大賞 14

理事長・学長賞受賞作品
 優秀賞受賞作品

イベント団体紹介

16

おーたんフレンズ
 Hand Made サークル「belle époque」
 バルーンアート同好会「ばろん。」
 パネルシアター部

千代田学事業報告

23

大妻女子大学 教授 石井 雅幸
 上智大学 助教 光武 智美
 専修大学 教授 根岸 徹郎
 東京家政学院大学 准教授 加藤 理津子

日本歯科大学附属病院 マタニティ歯科外来
 非常勤歯科医師 阪 奈津子

法政大学 教授 岩佐 明彦
 東京家政学院大学 教授 酒井 治子

地域貢献プロジェクト／
地域連携プロジェクト報告

31

家政学部 教授 岩瀬 靖彦
 家政学部 教授 樺山 敏郎
 家政学部 教授 川口 美喜子
 家政学部 教授 阿部 栄子
 家政学部 教授 石井 雅幸
 家政学部 教授 金田 卓也
 家政学部 准教授 石井 章仁
 家政学部 准教授 厚東 芳樹
 家政学部 常勤特任准教授 木村 かおる
 社会情報学部 教授 炭谷 晃男
 社会情報学部 教授 細谷 夏実
 人間関係学部 教授 藏野 ともみ
 人間関係学部 教授 丹野 眞紀子
 人間関係学部 教授 干川 剛史
 人間関係学部 教授 八城 薫
 人間関係学部 准教授 堀 洋元
 人間関係学部 准教授 山本 真知子
 短期大学部 教授 堀口 美恵子
 短期大学部 准教授 富永 暁子
 短期大学部 専任講師 田口 裕基
 教職総合支援センター 常勤特任
 准教授 深水 浩司

大妻古本募金

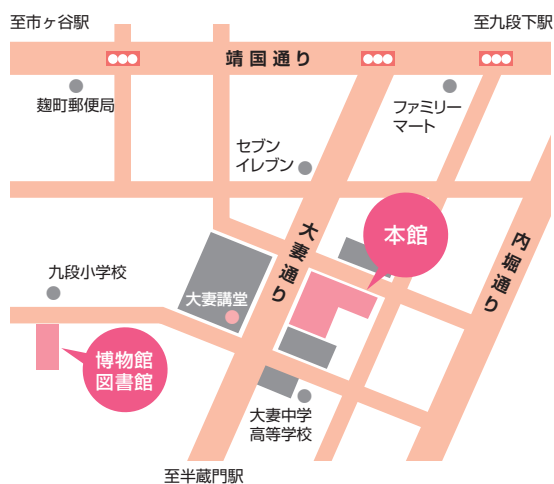
53

おすすめイベント

大妻コタカ記念会会長 講演会 10
 大妻女子大学博物館・図書館－2023特別企画－ 11
 大妻コタカ先生の言葉をあなたへ 12
 公開講座「女性がはたらき、成長するということ」 13
 春休み小学生講座 18
 小学生でも理解できる航空教室 19
 学生食堂を体験しよう！ 20
 大妻スペシャルスイーツのご紹介 21
 北海道美瑛町「丘のまちびえい」の魅力発信 22

会場マップ

	本館E棟・エスカレーターホール	本館F棟
6F		春休み小学生講座 p.18 化石掘り体験 10:00～11:30/13:00～14:30 (F634) ハーバリウム作り 10:00～11:00/13:00～14:00 (F642) セッケンカービング作り 11:00～12:00/13:30～14:30 (F642) カレー粉をつくろう! 10:30～11:30/13:30～14:30 (F632) におい袋作り 10:30～11:30/13:30～14:30 (F642)
5F	春休み小学生講座 p.18 間伐材を使って工作をしよう 10:00～11:30(エスカレーターホール)	小学生でも理解できる航空教室 p.19 11:00～12:00/13:30～14:30 (F542)
4F	春休み小学生講座 p.18 新聞エコバッグをつくってみよう 10:00～11:30(エスカレーターホール)	春休み小学生講座 p.18 とにかくつくってみよう 10:00～11:30/13:00～14:30 (F442)
3F	パネル展示 千代田学 / 俳句大賞 / 表紙デザイン画 (エスカレーターホール) あんぱん販売 p.21 10:00～12:00 (エスカレーターホール)	パネルシアター部 p.17 パネルシアター公演 13:00～13:30 (F332)
2F	Hand Made サークル「belle époque」 p.16 アクセサリー販売 10:00～15:00 (エスカレーターホール)	学生食堂を体験しよう! p.20 10:00～15:00 (コタカフェ)
1F	おーたんと記念撮影 p.16 10:00～10:20/11:00～11:20/ 12:40～13:00(エントランスホール) あんぱん販売 p.21 14:30～16:30 (エントランスホール)	「丘のまちびえい」の魅力発信 p.22 北海道美瑛町の多彩な魅力をご紹介します (コミュニティテラス)
B1F	講演会 p.10 「大妻コタカ先生の教え」 10:00～11:00 (E055) 公開講座 p.13 「女性がはたらき、成長するということ」 15:00～16:00 (E055)	
大妻女子大学博物館・図書館		
	コタカ先生のお宅訪問 / パネル展「ちょっと昔の大妻界限」(博物館) p.11	
	マンガ「教えの道をひとすじに 大妻コタカ物語」原画展示 (図書館) p.11	



※千代田キャンパス本館のうち、地下1階から6階までが会場です。それ以外のフロア（7階より上の階）への立ち入りはご遠慮ください。



千代田のさくらまつり 「大妻さくらフェスティバル2023」

千代田区長

樋口 高顕

桜の便りとともに、春の息吹を感じる季節がやってまいりました。多くの皆さま方が心待ちにされていた「大妻さくらフェスティバル 2023」が今年も開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。大妻女子大学では、毎年、本フェスティバルが「千代田のさくらまつり」と連携し、コロナ禍においても、様々な創意工夫を凝らし開催されますことを、千代田区と致しましても応援させていただいております。また、区の花「さくら」を題材に多くの研究や交流など、地域に根差した大学として、大きな力を発揮していただいておりますことに、改めまして敬意を表するとともに、深く御礼申し上げます。千代田区では、「千代田のさくらまつり」がウイズコロナの時代にあっても、千鳥ヶ淵の土手や緑道に咲く桜の魅力を存分にお楽しみいただけるよう、改善を重ね開催させていただいております。本フェスティバルが春の風物詩となり、末永く皆さまに愛される催しとなりますよう、貴大学との連携の輪をさらに広げてまいりたいと存じます。大妻女子大学におかれましては、地域の皆さまをはじめ、区の事業との連携を深めていただき、「飛躍と向上」の年となることを願っておりますので、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。年頭にあたり、大妻女子大学のますますのご発展を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



「千代田のさくらまつり」と 「大妻さくらフェスティバル」

大妻学院 理事長

大妻女子大学 学長

伊藤 正直

千鳥ヶ淵のさくら開花にあわせた「千代田のさくらまつり」が開催される時候となりました。2023年に入ってもコロナ禍の収束がなかなか見通せない状況ですが、「千代田のさくらまつり」の一環としての「大妻さくらフェスティバル」は、本年度は、対面方式でも実施することといたしました。恒例の小学生の部、中高生の部、一般の部と分かれて募集する「俳句大賞」、「千代田学事業報告」のポスター発表、「小学生講座」、「地域諸団体による各種イベント」、「物産展や航空教室」などを、本年度は開催します。ご参加の上、楽しい時間を過ごしていただきますよう、お願い申し上げます。

千代田区は、東京の中心部を占め、国会議事堂や諸官庁がある政治の中枢地域であるだけでなく、大手企業の本社、経団連などの経済組織が立地するオフィス街でもあり、さらには多くの大学や文化施設が集中する文教区域でもあります。こうした優れた都市環境のなかで、本学院も、新しい都市文化の担い手として、その一端を担うべく努力していく所存です。今後ともよろしく願い申し上げます。



大妻さくらフェスティバルの 開催に寄せて

大妻さくらフェスティバル実行委員長
大妻女子大学地域連携推進センター 所長

小川 浩

千鳥ヶ淵を囲む木々や水面に春の気配を感じるようになってまいりました。この2年間、「大妻さくらフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止に対応しつつ、文化活動・地域交流の機会を止めないという考えの下、様々な工夫を凝らして非対面で開催してまいりました。そして本年度、未だ新型コロナウイルスは完全な収束には至っておりませんが、様々な社会的制限が緩和されている状況に照らして、いよいよ対面で開催させていただくことといたしました。この間、私たちはオンラインなど対面に代わる方法でコミュニケーションを取り、集い、学ぶ経験をしてまいりました。確かにオンラインは、移動時間、会場確保、スケジュール調整など、多くのことを省力化できるメリットもありましたが、「雰囲気共有する」「一緒に盛り上がる」など、フェスティバルに欠かせない要素は、対面以外の方法では得難いことも実感いたしました。2年間のブランクを機に、イベントや発表の方法を修正した部分もございますが、久々に対面での大妻さくらフェスティバルを楽しんで頂ければと思います。千代田区、千代田区の各大学、地域の皆様には、改めてご協力いただきますことに感謝を申し上げます。今後も、本学と地域との連携を深めるため、微力を尽くしてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



「大妻さくらフェスティバル2023」を 祝して

一般財団法人大妻コタカ記念会 会長

井上 小百合

この時期になると桜の開花がいつになるのかと心が浮き立ってきます。久々に多くの方においでいただいていた「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことを嬉しく思います。

今年は「大妻コタカ先生の教え」というテーマで講演をさせていただきます。何の後ろ盾も持たない一女性が不撓不屈の信念によって学校を発展させていった大妻コタカ先生の生き方が皆様にお伝えできればと思っています。多くの方が関心を寄せていただければ幸いです。

大妻コタカ記念会は、大妻女子大学、大妻高等学校、大妻多摩高等学校の卒業生および在学・在籍する大学生、高校生によって構成される一般財団法人です。大妻コタカの偉業を継承・具現することを目的の一つに掲げ、同窓会事業はもとより、一般財団法人として広く一般の公益に資する事業を積極的に進めております。生涯学習講習会のほか文化講演会の開催もおこなっておりますので、多くの方にご参加いただけますようお待ちしております。

「千代田のさくらまつり」 に寄せて

大妻女子大学と区内10大学は相互に連携・協力して、それぞれが有する知的資産を地域に還元することで千代田区を維持し、発展させ、次世代に引き継いでいくことを目的に、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」を締結しています。区内10大学からお祝いの言葉を寄せていただきました。



「戦」は続く

共立女子大学／共立女子短期大学 学長
川久保 清

3年振りに行動制限の無い正月を迎えましたが、コロナ感染症第8波が続いています。昨年末に発表された2022年の漢字は「戦」でした。ロシアのウクライナ侵攻、円安物価高、スポーツ熱戦などを反映した漢字です。今年も同じような戦いが続きます。ウイズコロナの戦いもローブローのように社会経済活動に影響を与え続けています。年末に神保町の古書店「古賀書店」が閉店しました。クラシック音楽の資料や楽譜で有名で、木造3階建ての表面を装飾して石造りのように見える「看板建築」も神保町の顔のようでした。

社会経済状況は少し上向きで、本学の学生の就職状況が順調なのは明るいニュースです。4月には建築・デザイン学部を開設します。美術の視点から「空間」や「モノ」をとらえ、創造的に形にしていく力を身につけます。街づくりも得意のテーマです。9月にはラグビーワールドカップフランス大会が開催されます。また、私達に「ワンチーム」の熱い思いを与えてくれるものと期待しています。



「希望」につながるサクラ

城西大学 学長
藤野 陽三

春光さわやかな陽気が感じられる頃、「千代田のさくらまつり」ならびに「大妻さくらフェスティバル」の開催を心よりお慶び申し上げます。大妻女子大学のある半蔵門付近は以前からなじみがあり、春になると千鳥ヶ淵のサクラ（桜）を楽しむ機会が多くありました。千鳥ヶ淵は単にサクラがあるだけではなく、皇居を背景に、水があり、私の専門である橋があり、遠くには、丸の内、大手町の高層ビルがあり、素晴らしい眺望が私はとても好きです。千鳥ヶ淵で橋を背景にした絵を何度か描く機会あり、そして、何度も、学生達と千鳥ヶ淵公園で花見を楽しんだことがあります。現在、我が国、個々人、組織、そして社会全体が厳しい状況におかれています。だからこそ、明日に向けての「希望」を持つべきだと、私はいろいろな機会でも周囲に伝えています。厳寒の冬が終わり、雪が溶け春になり、サクラが咲く…。新しい時が来るという気持ちになり、誰もが希望を抱くきっかけをくれるのが、「サクラ」なのだと思います。

今年も、千鳥ヶ淵の満開のサクラを楽しみしております。



千代田のさくらまつりに寄せて

上智大学 学長
曄道 佳明

海外で日本文化が紹介されるとき、多くの場合にその背景に咲き誇る桜が用いられます。日本を感じてもらうために桜が用いられる理由は、単にその美しさからだけでなく、芽吹く桜、五分咲き、七分咲きの桜、満開の桜、そして散る桜という流れの中に、日本独自の価値観としての起承転結が見られるからではないでしょうか。毎年訪れる“桜の季節”を、私たちは心待ちにしていますが、それはまた、私たち自身が日本を感じる機会となることを知っているからなのでしょう。桜をこの国の象徴として考えることができることを、私たちは潜在的に誇りに感じているのだと思います。

今年も千代田の桜まつりが開催されます。そのご準備、運用に関わられる全ての方々に厚く御礼申し上げます。都心で展開されるこのイベントが、私たちの伝統的な価値観を再認識する機会となると同時に、この大都会にひとときの安堵を与えてくださることを期待して、私からのご挨拶とさせていただきます。



国際色豊かな学び場へ

専修大学 学長
佐々木 重人

このたび、「大妻さくらフェスティバル」が対面方式で盛大に開催されると聞き、誠にうれしく存じます。心より敬意を表し、お祝い申し上げます。

専修大学が千代田（神田キャンパス）に既存の法学部、生田キャンパスから移設された商学部、そして2020年に新設された国際コミュニケーション学部の3学部を集結させて、間もなく丸3年になります。この3学部のコラボレーションにより、国際色豊かな新しい学びの場を千代田に創出するとともに、本学がより深くこの地に根差し、地域社会の課題解決や発展に貢献していく所存です。手始めに千代田区（東京都）と協力し、まちの緑化推進の一環として、神田新校舎前の歩道脇にある花壇に花を植えることができました。

大妻女子大学が本企画を通じてリーダーシップを発揮されていることにエールを送るとともに、これを契機として千代田区にある各大学の魅力を共に発信していきたいと存じます。



千代田区内大学との連携に期待

東京家政学院大学 学長
鷹野 景子

「大妻さくらフェスティバル」が、今回対面方式で開催される見通しであるといい、コロナ禍に光明を見出す思いです。他大学同様、コロナ禍での授業に苦心しましたが、本学千代田三番町キャンパスでは、今年度前期は分散登校、後期は感染対策の下で基本的に全面对面授業を実施しました。

本学では「千代田区における SDGs 達成に向けた共創的な食育推進に関する研究」に、大学および併設校（東京家政学院中学校）の協力体制で取り組んで参りました。また、「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」にも、千代田区キャンパスコンソ加盟大学（大妻女子大学、共立女子大学、二松学舎大学、法政大学）とともに取り組み、本年 1 月 7 日に本学にて帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）の体験会を実施しました。学生を含む学内外の参加者と共に、私自身も多くの気づきを得ました。今後も千代田区内の大学との連携を楽しみにしております。



「千代田のさくらまつりに寄せて」

二松学舎大学 学長
江藤 茂博

桜の開花は、厳しい冬を耐え忍んだ後に、穏やかな季節の訪れを知らせてくれる。私たちが経験したこの感染拡大の長い期間を、四季のひとつである冬に喩えるなど、とても失礼な話かもしれないが、冬の時代という言葉もあるので、そこは許してもらいたいと思う。この満開の桜は、ずっと耐え忍んだ後の、私たちの明るい解放感とも重なるのだと書きたいのである。何よりも今年こそは、この解放感が「千代田さくらまつり」そして「大妻さくらフェスティバル」とさらに重なることに期待したい。そして、千代田区内のキャンパスコンソーシアムとして桜の花びらよろしく5つの大学が参集し、今年も2つの桜のイベントが開催されることに、大きな喜びを感じている。私どももまた千代田の桜木にならい、この地に卒業生というもう一つの満開の花を咲かせ続けることに努めたい。

大妻女子大学の事業継続のご努力に感謝申し上げます。



「膝を交える価値」

日本歯科大学 生命歯学部長
沼部 幸博

この度、「大妻さくらフェスティバル」が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。
昨今の状況では「ゼロコロナ」は望めず「with コロナ」の世界が当分続きそうです。大学の機能も回復傾向で、対面授業やクラブ活動が再開され、今後は様々な大学恒例行事の復活が課題です。コロナ禍前は対面が主流だった大学や学会の会議も、電子機器を使用した Web 会議・セミナーが当たり前となりました。しかし振り返ると Web 会議では、議題を協議した時期や季節、参加メンバーが正確に思い出せないことがあります。2 年越しの議題だったのに結論がすぐに出たような印象を受けることも。これは Web 会議最大の弱点でしょう。その反面、対面会議は印象に残るものが多いと感じます。そこには議論の経緯だけでなく、会場、日時、季節、参加者面々の熱気や服装、コーヒーやお茶菓子の味や香りなど、議論に彩りを加える多くの要素があったのに違いありません。昔ながらの対面で「膝を交える」という言葉、意外に奥が深いようです。「大妻さくらフェスティバル」の数年ぶりの対面方式開催、とても楽しみです。



明るい未来をさくらに期待

日本大学 学長
酒井 健夫

桜は、春の訪れと共に美しく一斉に咲き、そして短期間で一斉に散りますが、この儚さが魅力です。東京の桜は、千鳥ヶ淵、日比谷公園、靖国神社などが有名で、そのいずれもが千代田区内にあります。今年も、「千代田のさくらまつり」の一環として「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、間もなく 4 年目を迎え、確実にウィズコロナの時代となりました。こうした中で、地域の発展と地域文化を広く伝えることを目的に、「大妻さくらフェスティバル」を主催される大妻女子大学の皆様に、心から敬意を表します。

千代田区に設置されています日本大学本部及び法学部、経済学部、理工学部、歯学部、通信教育部の学生及び教職員は、千代田区の一員としてイベントに参画し、千鳥ヶ淵緑道に咲き誇る約 260 本のソメイヨシノを楽しませていただきます。



千代田のさくらまつりに寄せて

法政大学 総長
廣瀬 克哉

今年もまた「千代田さくらまつり」の季節を迎え、「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことをお慶び申し上げます。

年度初めの時期に重なる千代田のさくらは、学校関係者にとって新たな始まりという季節感をともなって開花を迎えます。毎年繰り返されるときの巡りのなかで、ひとつの節目を迎え、気持ちも新たにリスタートする学校の活動を、桜は華やかに彩ってくれます。3年ぶりに迎える行動制限のない花見となりそうですが、この間のさまざまな困難の経験を踏まえ、われわれは少しは「賢く」この季節を迎えることができるでしょうか。禅語の意味とはまた違った意味で、同じ花の下であっても、以前とは何かひとつ進化したかたちで人の営みが繰り広げられていくことを期待したいと思います。

桜花のはなやぎのなか、久しぶりにさまざまな人と人の交流が豊かに生まれることを祈念いたします。



地域・大学のさらなる 連携強化を目指して

明治大学 学長
大六野 耕作

桜の名所・千鳥ヶ淵の桜が本格的な春の訪れを実感させてくれる頃、「千代田のさくらまつり」の一環として貴学の「大妻さくらフェスティバル」が開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

千代田区と区内の大学が行う調査・研究事業である「千代田学」を通じた各大学の取組みは、大学の魅力・特色をより多くの区民の皆様知ってもらえることができる貴重な機会であるとともに、地域と学生との交流の場の創出にもつながっています。一方、千代田区と大学の連携の深化は、区内の大学同士の連携を促進する一翼も担っております。その中で、「大妻さくらフェスティバル」は、大学間連携・学生交流のひとつの核となるイベントでもあります。貴学の積極的な活動に対し、参加大学の学長として心から感謝申し上げるとともに、本学といたしましても、今後もさらなる交流を図ってまいりたいと考えております。

結びにあたり、千代田区の一層の活性化と各大学の益々の発展を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

講演会「大妻コタカ先生の教え」

講師：井上 小百合氏（一般財団法人大妻コタカ記念会会長）

「大妻さくらフェスティバル 2023」の一環として、「大妻コタカ先生の教え」と題して講演会を行います。みなさんのご参加をお待ちしております。

詳細

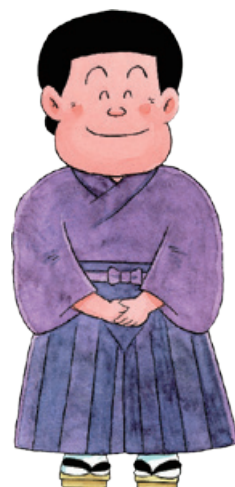
時間：10：00～11：00

会場：本館 E 棟 055 教室

講師：井上小百合氏（大妻コタカ記念会会長）

<講演会後は、興味あるイベントにご参加ください>

- ・ 図書館「マンガ『教えの道をひとすじに 大妻コタカ物語』の原画展示」
- ・ 博物館「コタカ先生のお宅訪問！」コタカ先生が晩年過ごした居室を移築復元しました。
- ・ 小学生理科実験教室、工作教室・体験教室
※体験教室は大人の方も参加可能。「花を活かした作品作り」「君だけのカレー粉をつくろう！」他
- ・ 協定締結団体による催し物（北海道美瑛町の物産展、JAL スカイによる航空教室ほか）



大妻学院創始者
大妻コタカ



大妻女子大学博物館・図書館

「大妻さくらフェスティバル2023」特別企画開催中

大妻女子大学博物館は、学院創立者の大妻コタカ・良馬（コタカの夫）・大妻学院に関する資料などを収集し、調査研究と展示公開を行っています。また、博物館学芸員課程履修者を館園実習生として受け入れ、将来の学芸員の養成も行っています。

博物館は、地域に根ざした生涯学習の場として、日々の調査研究の成果を情報発信しています。



大妻さくらフェスティバル 2023 特別企画

①コタカ先生のお宅訪問！（博物館）

大妻コタカ先生が、生涯の中で暮らした住まいに関わる資料をご覧ください。

博物館入口では、先生が晩年を過ごした居室の一部を復元しています。あわせて、居宅全体の復元模型も展示しています。

また今回、先生が生まれ育った生家（広島県世羅郡世羅町に現存）の模型を特別公開します。先生がかつて過ごしたお住まいの数々から、先生のお人柄と生涯に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



大妻コタカ旧居室（移築復元）



大妻コタカ旧居宅模型



大妻コタカ生家模型



②パネル展「ちょっと昔の大妻界限」（博物館）

昭和から平成にかけて撮影された、大妻女子大学千代田キャンパス付近の写真を展示します。

今はもう見られない校舎や体育館など、懐かしい三番町の風景をお楽しみください。

旧校舎
(現・大学校舎D棟付近)

③マンガ「教えの道をひとすじに 大妻コタカ物語」の原画展示（図書館）

図書館にて、マンガ「教えの道をひとすじに 大妻コタカ物語」の原画が閲覧可能です。

大妻コタカ先生の言葉をあなたへ

一般財団法人大妻コタカ記念会
協力：大妻女子大学大妻コタカ・大妻良馬研究所

大妻学院の創設者大妻コタカは、広島県世羅郡の農村地区で生まれ育ち、18歳で上京後、苦学奮闘し、大妻良馬と結婚後、何の後ろ盾もなく現在も続く大妻学院を創設しました。

大妻コタカが学校を創設した時代は女子教育の勃興期で、すでに東京には女子教育の先駆者として津田梅子が現在の津田塾大学、嘉悦孝が現在の嘉悦学園、下田歌子が現在の実践女子学園、鳩山春子が現在の共立女子大学、吉岡弥生が現在の東京女子医科大学を開校し、盛況を呈していました。

大妻コタカはこれらの人に遅れて大妻学院を創設しましたが、この先輩たちは、実家が財閥であるという大きな後ろ盾があり、また女子でありながらも幕末明治の時代に海外留学などの特別な教育を受ける環境下にあった人たちでした。

大妻コタカは名家出身の先輩方が創設した学校と肩を並べ、臆することなく、同時代に女子教育勃興期のアンカーとして東京で頑張りました。

大妻さくらフェスティバル 2023 特別企画

大妻コタカの残した言葉と写真を大妻さくらフェスティバル 2023 会場の各所に「大妻コタカ先生からの言葉をあなたへ」と題して10の言葉を展示します。



「大妻コタカ先生からの言葉をあなたへ」展示場所

- E 棟
エスカレーター付近（地下1階～）
- 大妻講堂ロビー

公開講座 「女性がはたらき、成長すること」 ～共生社会へのチャレンジ～

講師：村木 厚子氏（学校法人大妻学院 理事、大妻女子大学共生社会文化研究所 顧問）

長年にわたり「キャリア」と「子育て」を両立してきた、大妻学院理事・村木厚子氏を迎え、「女性がはたらき、成長すること ～共生社会へのチャレンジ～」というテーマで公開講座を開催いたします。

詳細

時間：15：00～16：00

会場：本館 E 棟 055 教室

講師：村木 厚子氏（学校法人大妻学院 理事、大妻女子大学共生社会文化研究所 顧問）

主催：大妻女子大学 地域連携推進センター

共催：大妻女子大学 共生社会文化研究所

後援：学校法人 大妻学院、一般財団法人 大妻コタカ記念会

講師プロフィール

日本の労働・厚生労働官僚として活躍。2008年に雇用均等・児童家庭局長を務めた後、内閣府政策統括官、厚生労働省社会・援護局長を歴任し、2013年7月から2015年9月まで厚生労働事務次官を務めた。2016年から現職。

（学校法人大妻学院 理事、大妻女子大学 共生社会文化研究所 顧問）



大妻さくらフェスティバル俳句大賞

大妻さくらフェスティバルのイベントの一つとして、俳句大賞を実施いたしました。今年度は「月」・「実」をテーマに、全国各地の幅広い年齢層の皆様から、1,001句の作品が寄せられました。たくさんのご応募ありがとうございました。厳正な審査の結果、入賞した作品を発表します。

理事長・学長賞

テーマ「月」

小学生以下の部

アイフォンの

りんごのような赤銅の月

東京都千代田区

小林 青嗣

中学・高校生の部

満月や手足が舞って踊りたき

東京都練馬区

山本 愛奈

一般の部

曖昧の良き日もあって朧月

富山県滑川市

折田 祐美子

テーマ「実」

小学生以下の部

腰を曲げ稲穂地面とごっつんこ

茨城県日立市

加古 瑠莉那

中学・高校生の部

どんぐりでポケット満たし急ぐ帰路

東京都杉並区

川嶋 里佳

一般の部

柿一つ空に残して夕支度

兵庫県加東市

宮田 賢三

優秀賞

テーマ「月」

小学生以下の部

まんまる月遠いジイジも見てるかな
 東京都江戸川区 白鳥 花奈
 お月さまパンケーキみたい食べてみたい
 東京都千代田区 矢野 和音

中学・高校生の部

東京は碧くそまれり春の月
 福島県いわき市 関根 杏華
 三日月が好きだと笑う君が好き
 京都府京都市 岩口 陽香
 咳込みて早退きをする昼の月
 石川県鳳珠郡 藪 優斗

一般の部

月代や单身寮は声もせず
 群馬県館林市 坂口 穰
 月の出や牡蠣小屋に鳴る古ラジオ
 愛媛県新居浜市 菅 伸明
 愛でる人いるや戦地の秋の月
 栃木県宇都宮市 青柳 婦美子

テーマ「実」

小学生以下の部

栗の実をいっぱいにとって食べたいな
 東京都足立区 羽太 睦月
 皮も実も口に残らずマスカット
 徳島県美馬市 坂本 孝仁

中学・高校生の部

みかんむき凍える国の戦況を知る
 埼玉県さいたま市 原田 剣史郎
 桐の実を見つけた個数競い合う
 埼玉県戸田市 峯岸 泰希

一般の部

梅の実を漬ける老母の輝く眼
 神奈川県横浜市 岡部 伸子
 よその子を抱かせてもらう木の実晴
 愛知県東海市 加藤 久子
 桑の実や雲梯わきのランドセル
 徳島県阿南市 澤田 典子

イベント団体紹介

おーたんフレンズ

こんにちは。私たちは大妻女子大学の公認キャラクターおーたんの認知度を上げるため日々活動しているおーたんフレンズです。普段は多摩キャンパスや多摩周辺の施設とコラボさせていただいております。千代田での活動が久しぶりなので皆さんに会えるのが楽しみです。

当日は、本館 1 階エントランスホールにて、おーたんと来場者様との記念撮影ができます！チャンスは、① 10:00～10:20、② 11:00～11:20、③ 12:40～13:00 の 3 回です。ぜひぜひおーたんとの記念撮影にきてください。おーたんと待ってます！！



Hand Made サークル「belle époque」

普段の活動

私たち Hand Made サークル「belle époque」は、ネックレス、イヤリング・ピアスなどのアクセサリーを作っています。各々空きコマや授業終わりなど、好きな時間に来て自分の作りたい物の制作をしています。この部に入る前、アクセサリーを作ったことのない部員も多いですが、先輩たちから教わったり部員同士で教え合ったりと和気あいあいと活動しています。

大妻さくらフェスティバル当日

大妻さくらフェスティバル当日は、本館 2 階エスカレーターホールにて、制作したアクセサリーの販売・展示を行います。値段は 300 円から販売していますので是非お立ち寄りください！



毎年秋に開催される大妻祭では、自分たちで制作したアクセサリーの販売をしています！

バルーンアート同好会「ぱろん。」

私たちは主にオープンキャンパスの装飾や文化祭の装飾、スポーツフェスティバルの装飾などの学内活動を行っています。地域のイベントに参加し、子供たちにバルーンアートを教えたり、バルーンアートの配布をするなどの学外活動もを行っています。写真は今年度の文化祭の展示の様子です。今年度はラプンツェルをテーマにアーチやドレス、ゴンドラを作り、展示しました。そして、犬やうさぎ、剣を作り、子供たちへの配布も行いました。バルーンアートを通して子供たちとコミュニケーションを取ることができ、とても楽しく活動しています。今回の「大妻さくらフェスティバル 2023」では、装飾をしました。ぜひ、バルーンアートにも注目してみてください。



パネルシアター部

私たちパネルシアター部は主に保育園や幼稚園、児童館、子育て支援センターなどからの公演依頼を受け、定期的にパネルシアター公演を行っています。

また「全員で歌やダンスを踊りながら、みている人も一緒に楽しめるパネルシアター」を目指し、パネルシアターや振り付け、歌や手遊びなど日々練習に励んでいます。公演での子どもたちの楽しんでもくれる姿や笑顔を見ると、とても幸せな気持ちになり元気をもらうことができます。

パネルシアターに馴染みがない方もたくさんいると思いますが、みなさんが一度は耳にしたことのある歌、見たことのある振り付けが登場すると思いますので、ぜひ楽しんでいただくと嬉しいです。

会場：本館F棟 332 教室

時間：13:00～13:30



春休み小学生講座

「理科実験教室」「工作教室」「体験教室」

夏休みに大好評だった「小学生講座」の第2弾を開催いたします。

小学生を対象とした「理科実験教室」「工作教室」「体験教室」を行います。一部の講座については、大人の方も参加いただけます。参加費は無料！！予約不要で、当日先着順です。

多くの方のご来場をお待ちしております。

大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部
春休み 小学生講座 2023

3月18日 土 参加者募集

「理科実験教室」「工作教室」「体験教室」

	内容	時間	場所	人数
理科	化石掘り体験～火山灰調べ	①10:00-11:30 ②13:00-14:30	F634	各回10名 ※小学生のみ
工作	とにかくつくってみよう	①10:00-11:30 ②13:00-14:30	F442	各回10名 ※小学生のみ
工作	新聞エコバッグをつくってみよう	10:00-11:30 入退場自由	4階エスカレーターホール	材料がなくなり次第終了 ※大人も可
体験	ハーバリウムをつくろう！	①10:00-11:00 ②13:00-14:00	F642	各回15名 ※大人も可
体験	桜模様のセッケンカービングをつくろう！	①11:00-12:00 ②13:30-14:30	F642	各回15名 ※大人のみ
体験	キャンディ型のにおい袋をつくろう！	①10:30-11:30 ②13:30-14:30	F642	材料がなくなり次第終了 ※大人も可
体験	君だけのカレー粉をつくろう！	①10:30-11:30 ②13:30-14:30	F632	人数制限なし ※大人も可
体験	間伐材を使って工作をしよう	10:00-11:30 入退場自由	5階エスカレーターホール	人数制限なし ※大人も可

予約不要で、当日先着順です！！

会場：大妻女子大学 千代田キャンパス（千代田区三番町12）

※開校中、ウェブサイト掲載用の写真を撮影します。
 ※駐車場・駐輪場はありません。徒歩・公共交通機関をご利用ください。
 ※大妻さくらフェスティバル2023の一環として実施します。

持ち物
・筆記用具
・つくわくする気持ち

当日、学生食堂が営業しています。

好評につき、第2弾開催決定

主催：大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部
 地域連携推進センター
 TEL: 03-5275-6877 E-mail: chiki-event@ml.otsuma.ac.jp
 後援：学校法人 大妻学園
 一般財団法人 大妻コソカ財団
 大妻女子大学 共生社会文化研究所
 大妻女子大学 人間生活文化研究所

前回の様子は
こちらで確認

	内容	時間	場所	人数
理科	化石掘り体験～火山灰調べ	① 10:00-11:30 ② 13:00-14:30	F634	各回 10 名 ※小学生のみ
工作	とにかくつくってみよう	① 10:00-11:30 ② 13:00-14:30	F442	各回 10 名 ※小学生のみ
工作	新聞エコバッグをつくってみよう	10:00-11:30 入退場自由	4 階エスカレーターホール	材料がなくなり次第終了 ※大人も可
体験	ハーバリウムをつくろう！	① 10:00-11:00 ② 13:00-14:00	F642	各回 15 名 ※大人も可
体験	桜模様のセッケンカービングをつくろう！	① 11:00-12:00 ② 13:30-14:30	F642	各回 15 名 ※大人のみ
体験	キャンディ型のにおい袋をつくろう！	① 10:30-11:30 ② 13:30-14:30	F642	材料がなくなり次第終了 ※大人も可
体験	君だけのカレー粉をつくろう！	① 10:30-11:30 ② 13:30-14:30	F632	人数制限なし ※大人も可
体験	間伐材を使って工作をしよう	10:00-11:30 入退場自由	5 階エスカレーターホール	人数制限なし ※大人も可

小学生でも理解できる航空教室

「飛行機はどうして飛ぶのか知ってる？」

「飛行機はどうして飛ぶのか？」というテーマで、羽田空港で働いている日本航空のスタッフが、小学生も理解できるように説明します。(もちろん、大人の方にも楽しんでいただける講座です。)

飛行機に興味を持っている人、興味はないけど「ちょっと面白そう」と思った人であれば、どなたでもご参加いただけます。

詳細

予約不要 当日先着 50 名 (各回)

1 回目：11：00 ～ 12：00

2 回目：13：30 ～ 14：30

会場：本館 F 棟 542 教室

講師：羽田空港に勤務する日本航空
のオペレーションスタッフ

※株式会社 JAL スカイは、大妻女子
大学の協定締結団体です。



学生食堂を体験しよう！

期間中、学生食堂がご利用いただけます

「大妻さくらフェスティバル」の開催期間中、千代田キャンパスの学生食堂がご利用いただけます！北欧デザイナーズチェアが目印のオシャレな「kotacafé（コタカフェ）」が張り切って営業中！みなさんのご利用をお待ちしております。



※写真はイメージです



kotacafé（コタカフェ）

営業時間：10:00～15:00

場 所：本館F棟2階

本日のメニュー

大妻カレー、大妻カツカレー、かつとじ丼、ハンバーグデミソース、坦々麺、ボロネーゼパスタ、スイーツメニューなど

<平時の営業時間>

3月31日まで 月曜日～金曜日 11:00～14:30

4月以降 月曜日～土曜日 13:00～15:00

※大妻さくらフェスティバルの開催日以外は女性の方のみ利用可能です。

大妻スペシャルスイーツのご紹介

世羅梨のコンポート・おおつま ほいっぷ あんぱん



世羅梨のコンポート

大妻コタカ先生の出身地である広島県世羅郡世羅町は、一年を通して様々な果物が実る「フルーツ王国」。なかでも「世羅梨」と呼ばれる梨は、広島県の地域産業資源として認定されています。

大妻さくらフェスティバル期間中は、学生食堂「コタカフェ」にて、世羅梨を使ったコンポートを定食メニューのデザートとして提供いたします。

提供場所:本館F棟2階 kotacafé(コタカフェ)

おおつま ほいっぷ あんぱん

つぶあん＆ふわふわホイップクリームのあんぱんに、大妻女子大学の校章をイメージした焼印をあしらいました。

さくらフェスティバルのお土産にいかがでしょうか？

- ・金額 200円(税込)
- ・販売時間と場所
 - 【午前】10:00～12:00
3階エスカレーターホール
 - 【午後】14:30～16:30
エントランスホール



「丘のまちびえい」の魅力発信

北海道美瑛町の多彩な魅力をご紹介します

美瑛町は北海道のほぼ中央に位置し、なだらかな波状丘陵と雄大で緑豊かな自然環境が魅力のまちです。小麦やてんさい、豆類、馬鈴薯（じゃがいも）などの畑作農業を基幹産業としながらも、近年は「日本で最も美しい村」連合の取組みをはじめとした、美しい景観を次の世代に伝える取組みも行っています。



昨年5月に大妻女子大学と包括連携協定を結んだ美瑛町は、今回、大妻さくらフェスティバル2023に初参加します。パッチワークの丘、白金青い池など、北海道を代表するような美しい風景動画の放映や、美瑛産の素材を使用した揚げたてコロッケやスイーツ、乳製品などの販売、まちの情報発信などを行いますので、ぜひお立ち寄りください。

美瑛産きたあかりコロッケ

美瑛町の農場でとれたじゃがいもでつくった、味自慢のコロッケ。子どもから大人まで大人気の商品です。ほくほくのコロッケを、是非ご賞味ください。



金額：150円（1個）

販売場所：本館1階入口付近



千代田学事業報告

千代田学とは、区内の大学が、千代田区に関する様々な事象を一つの学問として学ぶもので、平成16年度から始まりました。千代田区は、審査のうえ、その調査・研究に対し経費の一部を助成しています。

千代田区における理科教育推進事業： 大学や教育委員会が行う自然体験プログラムや理科教育施策と 学校教育のつながりを検討するための基礎的な研究

研究代表者：大妻女子大学 家政学部 児童学科 教授 石井 雅幸

本事業の背景と目的

学校教育は、以前とは異なる学び観に立った個々の子供の特性に合った教育の充実が求められているといえる。一方、千代田区の子供たちの現状は種々の学力調査の結果を見ると他地区に比べて高い水準にあるものの、理科の学力が他の教科に比べて低いといった結果が出ている。あわせて、区内の学校現場では、多くの子供がすでに理科の学習内容の知識をもっていることによる理科授業実施の難しさもあげられている。こうした中で、本学では千代田区の子供向けの野外体験プログラムを10年ほど継続して行ってきた。ある意味では、理科や自然に興味・関心をもった子供の力をより伸ばす事業を展開している。そこで、本研究では、本学が取り組む大学の地域貢献事業や千代田区教育委員会が取り組む科学センター事業などの自然や理科に興味・関心をもつ子供をより伸ばすプログラムのさらなる開発を行う。その上で、学校教育で行われている理科学習並びに幼稚園で行われている領域環境での活動を結びつける取り組みを検討する。そのための基礎的な研究を行うのが目的である。

活動内容

(1) 区内の子供対象の取り組みを担える可能性の検討

本学以外の千代田区内にある大学並びに研究機関においても複数の表記の取り組みが行われている。こうした取り組みとの連携のあり方を模索する。

(2) 本学の取り組み

- ①ぐるっと多摩川（生き物と地形・地質・岩石）：日帰りの連続講座（6日間）
- ②夏の南会津での生き物観察と星の観察：二泊三日の宿泊事業と事前事後の学習
- ③冬の北海道美瑛町での雪についての学び：二泊三日の宿泊と事前学習
- ④群馬県赤城山での自然氷と火山地形の学び：一泊二日の宿泊事業と事前学習
- ⑤一日の自由参加によるアート、科学工作、科学実験教室の開催
- ⑥連続講座による子ども向けアート教室
- ⑦複数回の単発の食育事業
- ⑧千代田区小学校科学教育センターへの施設の提供と教員派遣
- ⑨学校教育活動に係わる事業（学生による授業支援）



(3) それを踏まえた区内の理科教育の実態

全科担当を基本としている小学校教員の理科授業への意識を調査した。その結果、小学校理科教育において、児童の主体的な問題解決活動の大切さは認識しているものの、その学習を組み込むことの苦手意識が高いことが明らかになった。こうした教員の実態を踏まえた改善の方策を前述の大学での取り組みと関連性を検討することが至急求められる。

研究協力者：厚東 芳樹（大妻女子大学 家政学部 児童学科 准教授）、小川 賢一（大妻女子大学 家政学部 児童学科 常勤特任教授）、木村 かおる（大妻女子大学 家政学部 児童学科 常勤特任准教授）

看護学生が中学生に対して 命の大切さを教える授業

～人の誕生を題材にした参加型授業の実践と効果の検証～

研究代表者：上智大学 総合人間科学部 看護学科 助教 光武 智美

1. 本事業の目的

千代田区では心の教育を重視した学校作りのため、全ての子どもが日常の授業において自己有用感や自己肯定感を高められるようにすることが提言されている。本事業は、外部講師としての助産師を活用した中学校における「命の授業」の効果検証を目的とした。

2. 事業内容と成果

事業内容の一部である千代田区内の中学校 2 年生を対象に、外部講師として研究代表者が実施した「人の誕生を題材とした命の授業」について報告する。授業によって、生徒の「普段の自分の考え」が授業によって変化が見られたかを検討するため、事前 (Pre)、1 週間後 (Week)、1 か月後 (Month) において、項目ごとに分散分析を行った。その結果、「3. 友達の命について考える」のみ有意な主効果が見られた。多重比較を行った結果、時期の違いは見られなかった。生徒の感想に対する授業直後の記述統計では「6. びっくり」が 57.1% と最も多く、「12. 感動した」が 51.7% であった。

表1 分散分析結果

	平均値 (標準偏差)			F値	p 値	多重比較
	PRE	WEEK	MONTH			
1 自分の命について考える。	3.52 (1.00)	3.58 (1.15)	3.58 (1.09)	0.11	.898	n.s.
2 家族の命について考える。	3.94 (0.90)	3.64 (1.03)	3.73 (0.98)	1.84	.167	n.s.
3 友達の命について考える。	3.36 (1.11)	3.39 (1.14)	2.97 (1.21)	3.90	.025	n.s.
4 世界の人々の命について考える。	3.42 (1.15)	3.52 (1.18)	3.45 (1.12)	0.16	.850	n.s.
5 家族が自分のことを大切に思っていると感じる。	4.18 (0.85)	4.18 (0.88)	4.24 (0.94)	0.22	.806	n.s.
6 友達が自分のことを大切に思っていると感じる。	3.79 (0.82)	3.76 (0.83)	3.82 (0.77)	0.18	.833	n.s.
7 自分自身が大切だと感じる。	3.76 (0.83)	3.73 (0.98)	4.03 (0.92)	2.92	.061	n.s.
8 自分には自分らしさがあると思う。	3.71 (0.98)	3.70 (0.92)	3.76 (0.94)	0.19	.827	n.s.
9 自分のことが好き。	3.27 (1.13)	3.55 (1.12)	3.55 (1.00)	3.08	.053	n.s.
10 生まれてきてよかったと思う。	3.76 (0.94)	3.82 (0.88)	3.94 (0.86)	1.17	.316	n.s.

表2 授業直後の感想 (複数回答)

感情	度数	割合 (%)
1 うれしい	3	8.6
2 悲しい	1	2.9
3 ジーンとくる	6	17.1
4 不安だ	7	20
5 ほっとしている	2	5.7
6 びっくり	20	57.1
7 もやもや	4	11.4
8 楽しい	1	2.9
9 くやしい	1	2.9
10 わくわく	1	2.9
11 心配	2	5.7
12 感動した	18	51.4
13 どきどき	2	5.7
14 難しい	5	14.3



文化的多様性を持つ千代田区の 国際性に関する調査・研究 —千代田区における多文化・国際性 という特色をどのように活かしていくか

研究代表者：専修大学 国際コミュニケーション学部 教授 根岸 徹郎

本研究の目的

海外の政治・文化施設を多く有する千代田区が多文化・国際性を様々な角度から検証し、これからの知の発信の在り方を探ることが本研究の目的です。

これまでの研究成果

千代田区の歴史的・文化的な多様性を支えている様々な事象に目を向け、取り上げながら、私たちの文化、生活との結びつきを明らかにしてきました。これまでシンポジウムを1件、学生が主体となった展示を2件行っています。

・シンポジウム「死者の日」をめぐって 2022年10月29日

メキシコ大使館と共同でメキシコ独特の文化である「死者の日」がどのような意義を持っているのかを検証するシンポジウムを開催しました。ハロウィンとの繋がりもあるこの「死者の日」は、キリスト教文化とは異なった文化の表れとして興味深く、日本のお盆に近いイメージのものです。



・「死者の日」の祭壇の展示 2022年10月24日～11月7日



メキシコで飾られる死者の日の祭壇を、学生が再現しました。ドクロなど一見すると怖そうなイメージのものも並んでいますが、亡くなった人への深い愛情が感じられる祭壇です。また、マリー・ゴールドは死者を導く花として大切にされます。

・世界のクリスマスから「フレッシュ」の展示 2022年12月19日～26日

世界の文化の多様性を考える一環として、今回は「フレッシュ」とフランスで呼ばれるキリスト生誕の場面のジオラマを学生が作成して、展示・紹介しました。



千代田区におけるSDGs達成に向けた共創的な食育推進に関する研究

研究代表者：東京家政学院大学 人間栄養学部 准教授 加藤 理津子

1. 研究の背景と目的

SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標) には食育と関連の深い目標も設定されている。日本においては、持続可能なフードシステムを構築することを目指し、SDGs 12「つくる責任 つかう責任」つまり持続可能な消費と生産への貢献が求められているが、環境に配慮した生産やフードロス削減など生産者に重点を置いた検討が行われることが多い。しかし、つくる側（生産者）だけでなく、つかう側（消費者）への食育を通し、消費者と生産者との共創的な取り組みを推進することもまた不可欠である。

そこで、本事業では、管理栄養士を目指す学生が、千代田区内の生産者とともに消費者の生活ベースに即した SDGs に関する食育ツールを開発することとした。

2. 活動内容

(1) 日本における食に関わる SDGs への取り組みに関する調査

若い世代の SDGs に対する実態を把握するため、管理栄養士養成施設に所属する大学 1 年生 132 名を対象に調査を行った。SDGs について 99%が「知っている」と回答し、環境や平等・公平にかかわる目標への関心が高かった。すでに行動していることには、食の消費行動において能動的にできることが取り入れられていた。一方、SDGs 達成に向けての取り組み方や取り組む機会、コミュニティに関する情報の提供が必要であることが示唆された。

(2) 「持続可能な消費と生産」を推進するための共創的な食育推進ツールの開発と普及

管理栄養士養成施設に所属する大学 4 年生 5 名が自分たちにできることを模索しながら生産者と共創して食育ツールの開発と普及を行った。まず、使用しなくなった和装の婚礼衣装を日比谷パレス（千代田区）から譲り受け、ティーマットにアップサイクルする方法を紹介した動画を制作し、中学 3 年生を対象に SDGs 体験授業を行った。また、都内で SDGs に配慮した農作物を生産する中西ファーム（八王子市）を訪ね、食材に対する想いを取材したうえでその農産物を活用したメニューを日比谷パレスと共創して開発し（写真 1）、2022 年 8 月 1～31 日まで SDGs 特別企

画として販売した。その際、テーブルを彩るアイテムとして中学生が制作したティーマットを活用した（写真 2）。生産者と消費者をつなぐレストランと共創したことで、利用者に SDGs への興味関心を高める機会を提供できたと同時に、普及効果を大きくすることができたと考える。



写真 1



写真 2

千代田区から発信 ～妊婦さんと赤ちゃんのお口の健康を守ろう～ プロジェクト

研究代表者：日本歯科大学附属病院 マタニティ歯科外来 非常勤歯科医師 阪 奈津子

1. 本事業の背景と目的

妊娠期の口腔ケアは、妊婦だけでなく、未来を担う赤ちゃんの健康につながる大切なものである。妊娠するとホルモンバランスが大きく変化し、唾液の分泌量の減少、悪阻や嘔吐により歯磨きがし難くなるなど、う蝕（虫歯）や妊娠関連歯肉炎（妊婦特有の歯周病）になりやすくなる。

特に妊娠関連歯肉炎の悪化は、早産や低体重児出産のリスクを高めると考えられている。

本研究では、日本歯科大学附属病院マタニティ歯科外来 10 年間の来院状況と治療内容をまとめ、妊娠期に必要な口腔ケアを考察し、妊娠前からの口腔ケアと赤ちゃんの頃からの口腔の健康の重要性を千代田区民に伝える。さらに、東京都 23 区内の妊婦歯科健診状況を調査し、より有用な健診方法を検討し、千代田区から、妊婦とお腹の赤ちゃんの口腔ケアによる健康増進について、発信・実現することを目的とする。

2. 本事業内容

- ・ 日本歯科大学附属病院マタニティ歯科外来における 10 年間の来院状況集計
- ・ 東京 23 区内の妊婦歯科健診調査（23 区のうち同意の得られた 16 区内）
- ・ 千代田区の“ままばば学級”にて講演および、スマートフォンのアプリでの Q & A の実施
- ・ 日本歯科大学生命歯学部学生に対し、“マタニティ歯科に関するアンケート”を実施し、理解度を調査し、同世代への啓発について検討。

3. 結果とまとめ

来院状況集計として主訴*¹ の 55% は虫歯、次いで 14% は親知らずの炎症と歯周病であった。来院経緯は 53% が紹介であった。

東京 23 区内の妊婦歯科健診については、2021 年度では受診率 33.5% であった。

日本歯科大学生命歯学部学生を対象に行った“マタニティ歯科に関するアンケート”調査では、妊婦の歯周病は早産・低出生体重児のリスクがあることを認知していない学生が多かった。

これらのことから、歯科の知識の少ない妊婦やその家族に、妊娠中のお口の中の変化が妊婦や胎児に影響を及ぼす可能性は、まだまだ広く認知されていないことが考えられた。

今後、千代田区の“ままばば学級”やスマートフォンアプリ【図 1】、チラシを用いて、妊婦とお腹の赤ちゃんの口腔ケアによる健康増進を目指し、発信していく。

* 1 患者が訴える症状のうち、主要なもの。



【図 1】 妊産婦向けスマートフォンアプリ

社会的包摂と場所愛着からみた 千代田区内の着座空間評価

研究代表者：法政大学 デザイン工学部 教授 岩佐 明彦

近年、都市の外部空間の重要性が改めて注目されている。令和2年には『『居心地が良く歩きたくなるまち』からはじまる都市再生』が国土交通省から提言され、まちなかを人中心のウォークアブルな都市として再生する機運が高まっている。また、covid-19の流行以降、ニューノーマルな生活様式を確立していくためにはより積極的な外部空間の活用が必要となっている。

本事業で着目するベンチや椅子などの着座空間は、外部空間の滞在性を高める上でも重要な要素であるが、それ以外にも都市における「社会的包摂」の実現や「場所愛着」の形成においても重要な役割を持つと考えられる。

- (1) 社会的包摂：多様な住民や来訪者の利用が可能とし、多様な属性で構成される千代田区の構成員に見える化する。社会的包摂の一助となる「ショーケース」としての役割。
- (2) 場所愛着：まちの中に誰でもアクセスできる視点場を提供することで、多様な境界で構成される千代田区の特徴を共有する。場所愛着につなげる「観覧席」としての役割。

千代田区は昼間流動人口が大きく、オフィスワーカーや観光来訪者などその属性も多様である。こうした多様な属性で社会的包摂を実現することや、多様な境界で構成される千代田区の魅力をプレゼンテーションし、その場所への愛着を醸成することは重要である。

本事業では、千代田区の外部空間に設置されているベンチや椅子、設えとして着座が可能となっている空間を対象として、社会的包摂、場所愛着に関して、以下の評価軸を設定した。

- (1) 社会的包摂（「ショーケース」としての着座空間）：多様な属性の利用が可能で、かつそこでの活動が生き生きと見えること。
- (2) 場所愛着（「観覧席」としての着座空間）：快適に滞在が可能で、そこに居ることによって境界の特徴や認識することができること。

以上の分析を通し、本事業では都市計画・都市政策の策定に資する資料の提供を行うことをめざした。

自然災害発生時における大学を拠点とした 帰宅困難者支援に関する研究

(2) 職員及び学生を対象とした 帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発

研究代表者：東京家政学院大学 人間栄養学部 教授 酒井 治子

1. 研究の背景と目的

近年、地震や台風等の自然災害が発生しており、首都圏においても直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害が発生し、対策も行われてきている。

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの5大学・2短期大学を含む大学では対応可能な範囲で「区民や一般の帰宅困難者の受け入れ」、及び「情報・食糧・飲料水などの提供」などの使命を担うことになっている。

そこで、本事業では、教職員や学生を対象に帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発と実施を試み、防災・減災意識の変化の効果から、人材を育成する防災教育ツールとして、帰宅困難者支援施設運営ゲームを検証することを目的とした。

2. 活動内容

- (1) 千代田区における過去の自然災害の歴史記録の集積と、帰宅困難者施設における防災に必要な情報・用品等のデータ収集できた。
- (2) 帰宅困難者一時滞在施設における体調管理システムの検討を行った。一泊二日の模擬避難生活体験を目的とした防災キャンプに参加した大学生の内、本研究の趣旨を理解し、協力に同意した男女27名を対象に、模擬施設滞在中のストレスおよび睡眠の測定、睡眠に影響する因子として、室温と騒音測定を実施した。
- (3) 帰宅困難者支援施設運営ゲームの実施と効果検証

令和4年9月～令和5年1月、教員、学生を対象に、各大学の一時滞在者支援施設を縮小して作成された帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練を実施し、発災時において、帰宅困難者支援施設の開設に伴って、どのような安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有が必要であるのか、学生及び教職員間で協議しあい、臨場感を伴った体験ができた。



共同研究者：法政大学 法学部 教授 伊藤 マモル
大妻女子大学短期大学部 教授 下坂 智恵
共立女子大学 文芸学部 准教授 近藤 壮
二松学舎大学 文学部 准教授 谷島 貴太
大妻女子大学 人間関係学部 准教授 堀 洋元

地域貢献プロジェクト報告

広く地域の皆さまへ大妻女子大学の教育と研究成果を還元し、皆さまの多様な学習ニーズに応えるとともに地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的として、平成 26 年度からスタートしました。今年度は 3 件のプロジェクトが採択されています。

地域連携プロジェクト報告

大妻女子大学では、学生の主体性や自立心が身に付く地域連携活動の一層の推進と発展を図ることを目的として、平成 25 年度に「地域連携プロジェクト」を創設しました。「地域社会との連携を活性化するとともに、学生の教育に資する活動」をテーマに、今年度は 18 件のプロジェクトが採択されています。

子育て世帯を食で支えるプロジェクト

代表者：家政学部 食物学科 教授 岩瀬 靖彦

現代の子育て世帯は、かつては親族や近隣から得られていた支援が得られにくく、育児の負担感や孤立感が大きいといえる。また、子育て情報に、SNS やアプリケーションなどの活用により、かつてより便利になった反面、「情報量が多すぎて正確な情報がわからない」という困りごととも増えている。このような現代の子育て世帯の状況を支援するために、管理栄養士・栄養士養成を担っている大妻女子大学の専門性を活かし、最新のエビデンスを踏まえた食に関する講習会を開催することとした。乳幼児を育児中は子のケアに時間をとられ、外出が難しくなることも多いことから、オンラインと対面のハイブリッド形式での開催に重点を置いた。一方、対面のみで開催する親子料理教室や離乳食・幼児食の試食会では、オンラインでは提供できない体験型の情報提供を通じて、食に関する悩みの解消や調理技術の修得を目指した。

標記プロジェクトは 4 回シリーズで実施した。メンバーは私以外に社会人大学院生および卒業生の計 7 名である。

第 1 回は 8 月 27 日（土）に食の子育て相談会「就学前のお子様がいる方向け」を対面とオンラインのハイブリッド形式にて実施した。会場設営にあたり、お子様連れの参加者に配慮し座りやすい机の配置とお子様とお母さまが参加しやすいように床にラグを敷き座って参加できるように配慮した。また、授乳やおむつ替えができるコーナーも設置した。プログラムは、プロジェクトスタッフによる、子育てがラクになる「食のコミュニケーション」、先輩ママの失敗&成功奮闘記「離乳食のすすめ方」「1 歳からのイヤイヤ期対策」「3 歳からの好き嫌い対策」の講演と質問&相談会で実施した。第 2 回は 9 月 17 日（土）に「授乳期からのママと子どもの（愛情♥ごはん）」を対面とオンラインのハイブリッド形式にて実施した。会場設営にあたり、お子様連れの参加者に配慮し座りやすい机の配置とした。離乳食と家族の食事を一緒に作れる方法を調理デモンストラーションし、試食をしてもらった。第 3 回はアトリエ mam's 講師（非常勤）の卒業生を招聘し対面により、「離乳食ワークショップ」を実施した。実施にあたりお母さま方に集中して参加いただけるように、外部委託会社に依頼し臨床研究センターを利用し預かり保育を行った。調理台ごとに同じ食材で離乳食前期、後期、幼児食の 3 種類を調理し試食してもらった。第 4 回は 1 月 28 日（土）に「親子クッキング講座（親子で楽しいピザ作り）」を開催した。ローテーブルとフロアマットをレンタルし、お子様とお母様が同じ視線で料理ができるように工夫した。最終回のみお父様も参加され親子仲良くピザ作りをしていただいた。各回とも質問なども多く、参加して良かったなどの意見を頂戴し好評であった。



小学校の読書活動推進への貢献を 図る学生ブックソムリエの展開

代表者：家政学部 児童学科 教授 樺山 敏郎

■■■プロジェクトの概要■■■

本プロジェクトは、本学家政学部児童学科児童教育専攻の学生（2年次中心）が千代田区立麹町小学校の読書活動の推進に貢献しようとするものである。読書の秋という時機を捉えて同小学校を訪問し、学生がブックソムリエとなって、児童（第1・2・3学年）に対して本の紹介や推薦を行う。

ブックメニューをプレゼント



【目的】

児童の読書活動を活性化することは、児童が自身の在り方を見つめ、自分を取り巻くヒト・コト・モノに対する新たな知見を獲得し、これまでの見方や考え方を問い直すとともに、豊かな感性や情操を養うことにつながる。小・中学校の教員を目指す本学科児童教育専攻の学生にとっても、それらは同様であり、児童の前に立ってブックソムリエとなり、読書のよさや醍醐味を共有する。

【内容】

読書の秋という時機を捉えて千代田区立麹町小学校を訪問し、学生がブックソムリエとなり、児童に対して本の紹介や推薦を行う。“ブックソムリエ”という用語は、一般化されてはいない。代表者が独自にネーミングしたもので、文字通り、本の紹介・推薦する活動である。単に本の粗筋や感想を伝えるだけでなく、相手とやり取りしながら、紹介・推薦する本の世界に巻き込み、相手が“読んでみたい”と思うように誘う活動である。取り上げる本については、小学校国語教科書の文学的教材（昔話、民話、伝承、物語、ファンタジー、詩など）が書籍化（絵本化）されたもの、併せて国語教科書の文学的教材と関連して紹介されている教育的価値が高いとされる本や絵本などを取り上げる。

〜〜プロジェクトの価値〜〜

小・中学校教員を目指す本学科児童教育専攻の学生が実際に小学校の現場を訪れ、読書のよさや醍醐味を言葉で伝えることにより、その価値や意義を児童と共有する意義は大きい。児童の前に立って活動するための準備の大切さ、活動を効率的に運んでいく難しさを実感できる貴重な機会となっている。コロナ禍において児童の学びを保障するという観点から、教科書のみならず本と向き合うことの大切さを実感する機会の提供にもなっている。



ブースをつくって



本ってやっぱり面白いね

健康への食意識向上の情報とがんを支える期間限定 「がんと健康的な食事・食べ方通信」の定期的配布と取り組み

代表者：家政学部 食物学科 教授 川口 美喜子

専門的な活動をしている方々が、大妻女子大学職員・学生を対象に健康のための食事に不安を感じている方、特に、学内で相談場所のない「がん」の予防と「がん」と共に生活をしている方々と家族と知人にも食べることで動くことで体調を整え一自分に恋する一あなたになれるように支えることを目的として活動しています。

活動の内容



1. がんの予防とがんと向きあう情報誌の発行を不定期に配信しています。

お困りごと相談 学内健康のこぼれ話 を担当者がお答え。

2. ヨガの教室 就業前、終業後の時間に 45 分間実施

3. 体に優しい簡単メニュー（スムージー、スープ）のデモンストレーションと提供
メニューの作り方などの冊子やパンフレットも配布

現場にて活動が続いている専門生の高い多職種が、がん相談・がん食事と栄養相談・ちいさなヨガ・体に優しいメニューを担当

岩城 典子 看護師 認定 NPO 法人マギーズ東京
がんのお困り相談

佐川まさの 管理栄養士
東京女子医科大学附属足立医療センター
健康な食事についてのお困り相談

セティ秀子 ヨガ講師 ラクシミイサンガ
ヨガの会 ヨガ教室開催

川口美喜子 管理栄養士 大妻女子大学
身体に優しい簡単調理提供

和装振興プロジェクト ～伝えよう！和服の魅力～

代表者：家政学部 被服学科 教授 阿部 栄子

【プロジェクトの目的】

本プロジェクトの開催を通して、世代を超えた人々が広く和服（きもの）に興味をもち、日本文化の理解を深め、着実に後世へと「きもの文化」を伝承していくことを目的とした。

【プロジェクトの概要と実施効果】

これまでに、本学被服学科における卒業研究（和服製作）はいくつもの団体・地域から注目され、数年前から日本橋（東京）における“きものサロネ in 日本橋”において、学生きもの優秀作品として選定され、公開展示してきました（日本橋 東京・COREDO 室町2・三井ホール）。令和4年度も和装きもの3点（婚礼衣装）が選定されました。これらの作品展示実施に向けた計画と作品展示、着装コーディネートをお本プロジェクトの学生が担当するとともに、展示期間中の解説を担当しました（一般展示公開：令和4年11月4・5日、東京国際フォーラム E ホール）。

本展示の開催は、在学生、卒業生、地域住民を対象として実施することに加えて、更に、都内および近郊の染織工房訪問や職人の技について、見学会や熟練された技術者から体験談などが聞ける機会を確保したいと思い、近隣の家政系大学にも声かけして計画したプロジェクトです。参加した学生全員が、これらの実施を通して、日本文化への理解が更に深まったことは大変に意義深いと考えています。また、この活動を通して「きもの（和服）」を多くの若い人たちが気軽に楽しめる衣服として身近に捉えてほしいこと、そして製作・着装を含めた実技、さらには、人々の通過儀礼をも解説指導できる本格的なプロジェクトチームとして成長したいと考えています。学生自ら、和服の製作、目的別コーディネート・着装を学ぶ中で自信をもって、和服の魅力を人に伝えることによって、学びの自信にも大いに繋がったものと感じています。



展示の様子と実施ポスター（於 東京国際フォーラム E ホール）

北海道美瑛町の公立学校の 児童・生徒への教育支援

代表者：家政学部 児童学科 教授 石井 雅幸

概要

2022 年度包括連携協定を結んだ北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒に対して、本学学生と教員による学校支援の取り組みを模索的に行い、今後、どの範囲まで実施可能であるのかを探る試みです。

内容

9 月上旬の 1 週間を利用して北海道美瑛町に行った 6 名の学生が、美瑛中学校、美馬牛中学校での教育活動支援や農福連携事業※に参加しての支援を行いました。

また、10 月に千代田校で行われた学園祭にて、学生と美瑛町の役場の皆さんが活動の成果を一緒に発表しました。

今後

今年度の取り組みをたたき台にして、次年度は本学の児童学科の学生が美瑛町内の公立学校の学校教育活動に入り学習支援を行ったり、学校生活指導上の支援を要する児童・生徒への支援を行ったりする活動を本格的に行う予定で準備を進めています。また、美瑛町教育委員会並びに本学の児童学科の教員が連携して美瑛町教育や福祉活動をさらに発展させたり継続させていくための方策を考えていける体制を築いていく予定で準備を進めています。

※農福連携事業：美瑛町は、町内で育つ子供の教育支援活動を緻密に行っています。特に、特別支援を必要とする子供たちに対して就学期間中の支援はもちろんのこと、義務教育終了後も就労支援を農業研修とタグを組んで行っています。そのことで、労働人口が減少している農業事業の支援も併せて行う形を創り出しています。



学園祭にて、美瑛町の PR 法被を着て、来場者に今回の自分たちの取り組みを語る学生



学園祭にて、美瑛町の PR 法被を着て、美瑛町の特徴的な取り組みを来場者に説明する学生①



学園祭にて、美瑛町の PR 法被を着て、美瑛町の特徴的な取り組みを来場者に説明する学生②



学園祭にて、放映した本学学生が美瑛町で行った活動の概要動画を視聴する来場者

プロジェクト構成員： 教授 樺山 敏郎、准教授 厚東 芳樹、美瑛町教育委員会 管理課 課長 梶原 祐治、美瑛町教育委員会 管理課 参事 目良 久美、美瑛町まちづくり推進課 課長 新村 猛、家政学部 児童学科 児童教育専攻学生 3 年 渡邊 奈月、2 年 上野 歩果、吉原 久瑠実、吉澤 里佳、吉田 杏沙夏、高橋 春薫

CHIYODA Creative ART Lab for Children 千代田クリエイティブ・アートラボ

代表者：家政学部 児童学科 教授 金田 卓也

「子どもはだれでもアーティスト」 パブロ・ピカソの言葉

自由な発想と創造力はアートの原点であり、さまざまなものの作りに欠かせないものだといえます。千代田区の子どもたちを中心にこんなものがあつたらいいな、こんなものができたらいいなという、子どもたちの作りたいもののアイデアを具体的な形に実現するための場（アートラボ）を大学で月1～2回開催しています。何かを教えるという教室ではなく、アトリエや工房や実験室のイメージに近く、アートラボと名付けました。子どもたちのアイデアを形にする、学校でも習い事でもない、たっぷりした時間の流れる、真剣に話を聞いてくれる大人のいる場所、そんな場所にしたいと活動を続けています。

教育の場は学校や家庭に限られるわけではありません。子どもたちはさまざまな大人と関わりながら、いろいろなことを学び成長していきます。ひと昔前、子どもたちは近所のお姉さんの手編みのやり方を真似したり、大工さんの仕事場を覗き込んでノコギリの使い方を学んだりしていました。このアートラボでは、子どもたちに第一線で活躍する大学の研究者の仕事場に来てもらい、保育や教育を学ぶ学生たちと一緒に子どもたちのアイデアを形にするための素材と場所を提供しています。

子どもの自由な発想を理解するためには関わる大人が柔軟で自由な考えを持っていることが欠かせません。芸術も科学もその根底には未知なるものへの飽くなき好奇心というものがあります。このアートラボでは子どもたちの好奇心をクリエイティブな力につなげていきます。

木の工作や染色などいろいろなことをやっています。ウクライナから来ている子どもたちも参加して大きな絵を描きました。



プロジェクト構成員：家政学部児童学科教授 石井 雅幸、短期大学部家政科教授 堀口 美恵子
大学院保育・教育学専修 佐藤 牧子・松家 麻記子、家政学部児童学科金田ゼミ 3・4年生

保育の魅力を保護者に伝えるための、 少子化地域の行政との協働プロジェクト（睦沢町）

代表者：家政学部 児童学科 准教授 石井 章仁

子どもの数が減少している昨今、人口減少が緩やかな都市部と、急激な減少を呈している地方と大きく分かれている。これからの保育を考える時に、この「人口減少地域」において、保育や子育て支援をどうするかは、我が国の社会的なテーマの1つとなっている。

今回、協働プロジェクトを行う睦沢町は千葉県の中央部に位置しており、元々子どもの数が少ない街である。睦沢町では、幼稚園と保育所を一体化し、幼保連携型認定こども園「睦沢こども園」を設置するとともに、こども園から中学校修了までの間の一貫した教育プログラムで保育・教育を行っている。

今回プロジェクトに参加した学生は、こうした保育行政に関する取り組みの理解の上、実際に3回に亘って園に赴き、そこで行われる保育の魅力を取材し、地域の子育て家庭などに伝えるための媒体を作ることとしている。保育の量だけでなく、質が求められている昨今、園で何気なく行っている良い実践や子どもの育ちを保護者等にどう伝えるかが課題となっているが、睦沢町立こども園の魅力を理解し、それをわかりやすく伝えるスキルが学生に求められる。

【取材の内容】

- 8月25日、第1回取材；学生が各クラスに入り、午前の保育を観察し（夏の遊び）、写真を撮影した。
- 10月26日、第2回取材；学生が各クラスに入り、午前の保育を観察し（秋の遊び）、写真を撮影した。
- 12月21日、第3回取材；これまでのまとめから、クラスに入り午前の保育を観察し（冬の遊び）、写真を撮影した。また、地域の子育て支援や地域との連携、園の研修などについてインタビューも行った。



昨年作成した冊子「とうがねの園どうかね」（東金市）を参考に、カラー16ページの冊子を作成する予定である。

全ての工程を学生主体で行い、写真を多く使うというコンセプトを決め、タイトルを考え、取材と編集を行った。

冊子の完成後、3月に園への贈呈を行う予定である。



三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動 およびその活動を世界に広げよう

代表者：家政学部 児童学科 准教授 厚東 芳樹

【プロジェクトの目的】

「三番町アダプトフラワーロードの会」と呼ばれる本活動は、三番町の道に花を植え付け管理する取り組みである。この取り組みには、千代田区と三番町町会、三番町会に關係する企業・団体、大妻学院、千代田区立九段小学校を中核に、ジョージ・ケリング氏が提唱した「窓割れ理論」を一つの根拠に実施している。今年度は、本活動を維持・管理していくための仕組み創りに加えて、本活動の国際化を推進していきたいと考え取り組んでいる。具体的には、一昨年度より児童教育専攻の学生達がオンラインで關係を構築してきたルワンダやタイの孤児院の代表者や地域住民を対象に、本活動で学んだ「地域の美化活動」のやり方を指導し実践してもらうことを推進する。

【プロジェクト「フラワーロード活動」の主な取り組み内容】

- 5月18日（水）18時00分から 千代田区立九段小学校ランチルームにてフラワーロードの会打ち合わせ（春・夏の部）を実施
- 6月23日（木）8時50分から12時10分 フラワーロードの会「花植え活動」
- 10月18日（火）18時00分から 千代田区立九段小学校ランチルームにてフラワーロードの会打ち合わせ（秋・冬の部）
- 11月24日（木）8時50分から12時10分 フラワーロードの会「花植え活動」

【プロジェクト「地域の美化活動を世界に広げよう」の主な取り組み内容】

- 6月30日（木）16時00分から 団体名「KISEKI」のスタッフ達とルワンダフラワーロードの会打ち合わせ
- 7月7日（木）「KISEKI」のスタッフへ日本や本学の紹介プレゼン
- 7月8日（金）「KISEKI」のスタッフおよびルワンダのスラム街に住む地域住民に「地域の美化活動」の紹介プレゼン
- 11月25日（金）「KISEKI」の主にスタッフに「大妻女子大学」と「地域の美化活動」を紹介し、「地域の美化活動」のやり方を指導した
- 12月2日（金）「KISEKI」のスタッフおよびルワンダのスラム街に住む地域住民に「地域の美化活動」のやり方を指導および実施した

【プロジェクトの成果】

例年同様、多くの地域の方より「街を綺麗にしてくれてありがとう」「いつも頑張ってくれて感謝します」などといった声かけを頂くことができています。また、今年度より取り入れた地域美化活動を世界（ルワンダ）に広げる運動でも、オンライン zoom で活動方法などを第一学年の学生達が伝え、ルワンダのスラムの街中に花を植えることができた。



科学技術館との地域連携活動プロジェクト 「夏休み数楽教室、自由研究お助け隊」

代表者：家政学部 児童学科 常勤特任准教授 木村 かおる

大妻女子大学は同区内にある科学技術館と教育協定を結んでおり、野外活動や天体観測会などを実施してきております。一方で、気軽に参加できる日常プログラムがまだ足りていません。そこで本プロジェクトでは、気軽に地域子どもたちが参加できる、科学館や大学のリソースを用いた楽しい専門性のあるプログラムを提供することを目的に実施いたしました。

本プロジェクトは、代表者が科学技術館で科学教室の運営に関わっていたことから、そこで開発・実施してきたプログラムを、地域子どもたちの夏休みの自由研究用にアレンジしました。今回は、「算数・数学」の魅力を伝える「数楽教室」を実施いたしました。教室では各自が26個のパーツを組み合わせて立方体の模型をつくりました。立方体の組み立て模型には4種類のパーツがあり、各パーツをつくりながらその違いに気がつくことから始まります。26個のパーツでできる立方体の組み合わせは何種類になるのか？立方体の断面図はどうなる？面積と体積の関係は？最後にはなぜ、26個のパーツで立方体が作れるのかの答えが見つかります。講師の先生のお話をききながら、大学受験レベルの問題もこなしていききました。また、東京オリンピック／パラリンピックのエンブレムのデザインの数学に裏付けられた規則性を学び、同じ方法で各自がオリジナルデザインを考えました。



このプログラムから、算数／数学とは紙と鉛筆で計算問題を解くだけでなく、楽しい作業であることを感じてもらえたと思います。模型を作ることから、展開図（2次元）と立体（3次元）の関係が直感的に理解することができ、面積と体積の関係の理解につながっていききました。このように科学館のプログラムは、年齢や決まったことを学ぶ必要がないため、専門家のサポートを受けることで、学校では教わらない内容や身近にあるデザインにも興味関心を持つことができたと思います。今後も、専門家とともにプログラムの検討を行い、提供できるコンテンツを増やしていきたいと思っています。

多摩ニュータウン南大沢40年CI*プロジェクトと 高齢者と子どもたちのエンパワーメント支援

代表者：社会情報学部 社会情報学科 情報デザイン専攻 教授 炭谷 晃男

※コミュニティアイデンティティ

1 経緯

2023 年は多摩ニュータウンの西部地域の拠点となる南大沢がまちづくり 40 周年を迎える。南大沢ならではの資産を活かし、市民と行政が協働で進める C I のまちづくりが求められている。

そこで、まちびらき 40 年を経過した八王子市南大沢地区の再生プロジェクトに協力しながら、住民の方を支援するプロジェクトに取り組んだ。さらに、子どもプロジェクトとしての寺子屋活動は月に 1 回程度、八王子市内の小学校施設を借用して小学生のためのサタデースクールを実施するもので継続的に実施した。高齢者プロジェクトとしての高齢者サロン活動にも継続的支援に取り組んだ。

2 プロジェクト

a. 南大沢川柳プロジェクト

八王子市南大沢は 2023 年にまちづくり 40 周年を迎える。南大沢は多摩ニュータウンにおける西部地区の中心的地区となっている。そこで当該地区で活動している市民団体である「南大沢コミュニティネットワーク」の団体と協働事業として、市民に対して南大沢に関わる川柳を公募する C I 活動を行った。

それぞれの南大沢に対する思いを 17 文字で表現してもらった。結果として 435 句の川柳が集まった。

募集期間 7 月 13 日～9 月 15 日

作品展示 八王子市生涯学習センター南大沢分館、八王子市社会福祉協議会
はちまるサポート由木、イトーヨーカドー南大沢店で実施

放 送 多摩テレビ TTV-NOW でニュース報道

学校展示 多数の川柳を寄せて頂いた宮上中学校、長池小学校、柏木小学校、
南大沢小学校で校内展示



b. 子どもの居場所プロジェクト：寺子屋

多摩キャンパス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に 1 回程度土曜に学校の教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋活動を実施している。寺子屋の活動内容としては寺子屋学習教室（漢字検定）、ドッジビー、ボッチャ、プログラミングカー、プラ板、万華鏡教室はじめ Xmas や正月ゲームなど季節行事も行っている。

c. 高齢者の居場所づくり：高齢者サロン

ボッチャは、老若男女誰でも、障害の有無を超えて楽しめるユニバーサルスポーツとしてボッチャがオリンピックのレガシーとして定着してほしいと願って取り組んでいる。今年も感染拡大によりスマートフォン教室やスポーツは中断せざるをえなかった。しかし、上記川柳作りを高齢者サロンで行い、創作した作品を読み合ってお互いが鑑賞しあった。共感したり、笑ったり、しみりしたり、高齢者サロンでの川柳作りの手応えを得ることができた。



能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト

代表者：社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻 教授 細谷 夏実

私たちのゼミでは、世界農業遺産にも認定されている能登半島の穴水町で里海里山の保全につながる活動、地元の子どもたちに海の大切さや楽しさを伝える海育（うみいく）の活動などを行っています。その活動がきっかけとなり、穴水町と本学は包括連携協定を締結しています。

【目的】

今回のプロジェクトでは、子どもたちが海の大切さを学ぶ活動を行うこと、また、能登の里山里海保全についての理解を広め、地域活性化の助けとなるような情報発信を行うこと、を目指しました。

【活動内容】

○能登での地域連携活動

今夏は、2年ぶりに現地での活動を行うことができました。今回は特に、穴水高校、金沢星稷大学のみなさんと共に、ボラ待ち櫓の再建作業に協力しました。ボラ待ち櫓は江戸時代から伝わる地元の伝統漁に使われていた櫓です。現在は観光用の櫓が数カ所設置されており、そのうちの1つを再建する作業でした。学生たちは、櫓の組み立てについて説明を受け、材料となる木材を設営場所まで運びました。再建の取り組みは地元のケーブルテレビや新聞でも紹介されました。

○「能登展」での能登の紹介と物産販売

ゼミでは毎年、大学祭で「能登展」を出展しています。今年は大学祭も2年ぶりに対面で開催され、上述のような能登での活動をポスターで紹介し、地元の櫓を活かした櫓茶やオイルなど物産の販売も行いました。当日は穴水町の方も来校して協力してくださり、ゼミ生は町の法被を着て説明や販売に活躍しました。

○向洋小学校の子どもたちとの取り組み

地元の向洋小学校の先生方、子どもたちと協同で、海への興味を深める新たな海育の取り組み計画を進めています。



【まとめ】

今年是对面での活動も再開することができ、地域と連携した新たな取り組みも行えました。今後も、里海保全や地域の活性化に向けて、能登の方たち、学生たちと力を合わせていろいろな取り組みを行っていきたいと考えています。

「高齢者聞き書き」で創る 交流事業プロジェクト

代表者：人間関係学部 人間福祉学科 教授 藏野 ともみ

1 プロジェクトの目的および方法



コロナ禍において地域に住む高齢者は社会的交流が減り、心身に影響を与えられている。同様に大学生も、大学での対面授業等は始まり動き始めているものの、ボランティア活動や学外実習等、学習面では制限があり、コロナ前に比べ、多様な形態の学習と活動機会を奪われている現状にある。

本プロジェクトは、高齢者を「おはなし（お話し）さん」とし、そのお話を聞き、様々な思いを文章にまとめる「ききがき（聞き書き）さん」を学生が務め、冊子にまとめるだけでなく世代間交流を行う。これらの活動を通して、高齢者の社会的孤立を防止し、学生にとっては多様な人々を知る機会として、自らがコミュニティの一員としての役割について考えることを目的としている。

今年度は、はちおうじ志民塾（主催：八王子市）の卒業生有志団体である「とうゆう会」のサポートの下、人間福祉学科の学生が「ききがき」さんとして活動し、八王子南地区の地域包括支援センター等の協力で紹介して頂いた高齢者と交流を持つこととした。



2 実施内容

実施方法としては、聞き書きの基礎について演習を交えながら学んだ上で、本プロジェクトの主旨に賛同くださった高齢者の皆様のお話を伺う機会を設け、学生が文書を作成し、再度、対面で学生と高齢者が話しをしながら、一緒に加筆・修正しながらまとめていくことにした。具体的には、人間福祉学科 13 名の学生に対して、とうゆう会のメンバー 4 名を講師として迎え、4 回に渡り「聞き書き講習会」を実施した。基礎知識の修得と演習を経て、その後学生 1 名もしくは 2 名 1 組で、計 7 名の高齢者を「おはなしさん」としてお迎えした。さらに、感染症対策をしながら、茶話会を開いたり、クリスマスカードや年賀状等を通して交流を行った。

3 考察

学生は「聞き書き」に初めて触れ、基礎学習の際に、他者の話を「聞くこと」「質問をしながら話しを深めること」「書くこと」を同時に行う難しさを実感し、相手の行間に込められた思いを汲むことがどれ程大変なことかを感じるようになったと感想を述べている。さらに、実際に「おはなしさん」を目の前にすると、緊張し、お話しになることを漏らさないように書き留めること



に集中することもあり、改めてコミュニケーションの深さを考える機会となった。また、お話しになる方の人生、時代背景、地域の状況等を理解することの必要性についても実感する機会となった。緊張感漂う聞き書きの時間と異なり、交流会となると話しが弾み、相互に感想を伝え合ったり、自分の好きなことを話す等、学生の自分たちらしさを発揮できていた。

医療的ケア児のファミリーフォト展

代表者：人間関係学部 人間福祉学科 教授 丹野 真紀子

2022年10月29日（土）・30日（日）の2日間にわたり、医療的ケア児のファミリーフォト展を実施しました。医療的ケア児とは生存のためにたんの吸引や経管栄養など（高度の医療技術）の医療的ケアを日常的に必要とする子どもたちのことを言います。2021年6月11日、参議院本会議で「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が可決されましたが、医療的ケアの必要な子どもを取り巻く環境は、社会資源の不足、医療と保育・教育の連携の難しさなど、まだまだ問題を抱えています。

医療的ケア児は、現在2万人が在宅で生活していると推定されています。こうした医療的ケア児やその家族に対して、国立医療センター内にあるキッズファム財団は、センター内に併設されている医療型短期入所施設もみじの家のサポートを行うとともに、写真スタジオ等で記念写真を撮ることが難しい医療的ケア児童と家族のために、ファミリーフォトプロジェクトを行っています。今回、キッズファム財団の協力、多摩市社会福祉協議会の後援を得て、大妻多摩祭内にて、「医療的ケア児のファミリーフォト展」を実施しました。2日間で400名以上の方に展示をご覧いただき、医療的ケア児の抱える問題を学生や地域の方々にも身近に感じて頂けたと実感しています。

プロジェクトメンバーは展示会実施に当たり、フライヤーとパンフレットを作成。当日は写真の展示のみならず、医療的ケア児についての説明、医療的ケア児が活用できる社会資源の紹介等、訪れた学生や市民の方に向けた展示資料を作成し、少しでも医療的ケア児童の置かれている状況理解を深めるとともに、医療的ケア児がより地域で生活しやすくなるように、展示に工夫を凝らしました。



パンフレット



学生たちが作成したフライヤー



展示の様子

気仙沼市における「ご当地グルメづくり」による復興支援活動

代表者：人間関係学部 人間関係学科 社会学専攻 教授 干川 剛史

活動内容：本プロジェクトの目的は、東日本大震災被災地の気仙沼市において「気仙沼ご当地グルメの会」と連携しながら、また、地域食材を活用した地域おこしの専門家の協力を得て、現地の魚介類等の食材を活用した「ご当地グルメづくり」を通じて被災地の復興を支援することである。

このプロジェクトを実施する際に、プロジェクト代表者の干川は、「気仙沼ご当地グルメの会」代表者で不動産会社「十人十色ライフサービス（株）」代表取締役社長の一色法人氏と連絡調整を行いながら、また、鹿児島県等の全国各地で地域食材を活用した「ご当地グルメづくり」の豊富な経験と実績を持つ榎木春幸氏に、現地の魚介類等の食材を素材とした「ご当地グルメづくり」について助言・指導を依頼した。

まず、2022年8月13日に干川と「気仙沼ご当地グルメの会」代表の一色氏が、「ご当地グルメづくり」検討会の企画及び地元メディアやSNSを活用した協力団体関係者や飲食店関係者等への参加の呼び掛けについて打ち合わせた。

そして、同年10月22日に「一色十色ライフサービス（株）」の事務所に、一色氏、干川と干川ゼミの学生3名、「一般社団法人 気仙沼倫理法人会」専務幹事の千葉健氏が集まり、榎木氏とZoomでのオンラインで検討会を実施した。まず、干川がこれまでの気仙沼市での「ご当地グルメづくり」の活動をパワーポイントで説明し、その後、榎木氏と学生を中心に気仙沼市での「ご当地グルメづくり」の今後の課題について意見交換を行った。その結果、「ご当地グルメづくり」は、一色氏と千葉氏が協力者を募って、気仙沼商工会議所や気仙沼市の協力の下に気仙沼市内の官民の連携体制を作り出した上で、榎木氏の支援を受けながら今後展開して行くという方策が導き出された。



Zoom によるオンライン検討会の様子



パワーポイント資料を表示したパソコンの画面

からきだ匠（たくみ）カフェ ～地域がつながる場所～

代表者：人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教授 八城 薫

♪テーマソング

「からきだ匠カフェ ～笑顔の咲くところ～」

からきだの道に 百本シダレ
桜咲くこの街に はじまる物語
からきだ通りに 咲くハナミズキ
唐木田のこの店に 集まる屋下がり
歳のせいだとか 病気のせいとか
そんなことは忘れて 笑顔咲くところ
からきだ匠カフェ だれもが匠だね
笑顔と歌で 広がってく

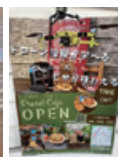
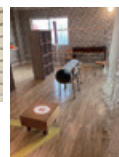
多摩キャンパス（唐木田）周辺は病院、福祉施設、教育施設など様々な施設が存在し、身体や心に不安を抱えても安心して暮らすことの出来る環境が整っています。そこで働く専門家（匠）集団が連携して吸引役となり、日頃から地域の様々な属性、世代の方々と繋がるような居場所づくりをすることで、いざという時に助け合えるような地域でありたい。そんな思いから2017年度4月、あい介護老人保健施設、社会福祉法人 楽友会、多摩市社会福祉協議会の方々と連携で活動をスタートさせ、このプロジェクト“からきだ匠カフェ～地域がつながる場所～”が生まれました。「からきだ匠カフェ」は、こ

の夏、「文具とピザの店」から「ドローンとピザの店」にコンセプトを変えて新装開店した“Planet Café（プラネット カフェ）”さんに場所をご提供いただき、毎月第4水曜日の14時から2時間ほど、開催しています。新型コロナ感染再拡大により、7月・8月は実施することができませんでしたが、9月から活動を再開しています。

本学からは、大学院臨床心理学専攻の院生と社会・臨床心理学専攻の学部生が企画メンバーとして活躍してくれています。お子様からお年寄りまで、様々な方々と一緒に楽しむ場所・空間づくり、「共生社会」の実現を目指す本学学生の実践の場づくりを目指して、これからも楽しく活動を続けていきます。

毎月の活動内容（テーマ）

- 5月25日（水）認知症企画1ー認知症について
 - 6月22日（水）みんなでハマっていること（マイブーム）を話そう！
 - 7月27日（水）「夏」！夏休み自慢、行きたい場所について話そう
 - 8月24日（水）大妻生企画1ー描画テスト「星と波テスト」
（7月、8月はコロナ感染拡大により中止しました）
 - 9月28日（水）認知症企画2ー物忘れのお話し。気になる事は聞いてみよう
 - 10月26日（水）ドローン体験会1ードローンでピタゴラスイッチにチャレンジ
 - 11月30日（水）ドローン体験会2ードローンで魚釣りゲーム & タッチングにチャレンジ
 - 12月21日（水）クリスマスのオーナメントづくり
 - 1月25日（水）新年会（ドローンを使った対抗戦）
 - 2月22日（水）カードゲームで交流会
 - 3月22日（水）大妻生企画2（変更の予定あり）
- ※上記の企画実施のために、毎月1回程度で企画会議を行っています。



学ぼうみんなのさいこうの笑顔のために

代表者：人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 准教授 堀 洋元

〔目的〕

プロジェクト活動7年目である今年度は防災に関する知識を体験的に学び、身につけた学びを地域の方々に拡散し共有することを目指したプロジェクト活動を行いました。

今年度のプロジェクト名は学生の発案によるものです。地域の方々にも親しみやすいよう「防災」という言葉を直接使わず、タイトルに「ぼうさい」の文字を隠すことで堅いイメージをなくしたいという学生からのメッセージでもあります。

〔プロジェクトの概要〕

- 1 体験的に防災を学ぶ 夏休み期間中に、都内にある防災施設での体験学習を行いました。そなエリア東京ではリアルに作られた地震直後の東京を歩きながらタブレット端末を使ってクイズに答え、直下地震にどのように対応すべきかを学びました。また、本所防災館では過去の大震災を再現した地震の揺れ体験、煙火災を想定した避難行動体験、局部的集中豪雨を想定したドアの開放体験などを行うことで災害の危険性について知り、自身の防災対応力を自覚する機会にもなりました。
- 2 体験的な学びを活かす 10月に行われた大妻多摩祭では、学内外での体験学習の中からPETボトルでの心肺蘇生法訓練、PETボトルでのランタン作り、防災食の食べ比べ体験、マンホールトイレや段ボールベッド、携帯用浄水器、ゴミ袋を使ったシェルター展示を行い、2日間で100名を超える参加者がありました。「体験して学ぼう」とのキャッチフレーズ通り、多くの来場者が防災を体験的に学ぶ場となり、企画した学生にとっても自分たちが興味を持った防災体験や知識を親しみやすく発信する貴重な機会となりました。
- 3 地域を知る・地域との交流 多摩キャンパスがある唐木田地域の街の歴史を知るために散策を行ったり、多摩市地域福祉推進委員会（ほっとネットしょうぶ）では地域の方々と交流する機会があり、災害時の地域のとりくみを協働して取り組んでいます。



本所防災館での体験学習



大妻多摩祭での体験コーナー



大妻多摩祭で掲示したポスター

〔プロジェクトの効果〕



多摩キャンパスで開催されたほっとネットしょうぶの様子

今年度プロジェクトの中心となった3年生は、入学当初からオンライン授業で学ぶことが多かった世代ですが、このプロジェクト活動では学内外で対面でのさまざまな取り組みを行いました。コロナ禍で思うように活動できなかった世代がなしえなかった取り組みを積極的にそして主体的に進めていました。大学が日常に戻りつつある中、防災と日常をひとつにしていくための活動を今後も継続していきます。

障害者雇用企業との連携による 多摩祭 T ボール大会の開催

代表者：人間関係学部 人間福祉学科 准教授 山本 真知子

1 プロジェクトの概要

大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科は、高等教育機関として全国で唯一、厚生労働大臣指定を受け、ジョブコーチ（職場適応援助者）養成に取り組んでおり、障害者の就労支援機関や障害者雇用企業にジョブコーチの人材を輩出しています。それらを背景に、本プロジェクトは、人間福祉学科の有志と大企業が障害者雇用推進のために設置する特例子会社が連携し、多摩キャンパスのグラウンドで「企業で働く障害者のTボール大会」を開催するものです。

「Tボール」とは、ソフトボールを土台にした球技で、ピッチャーがボールを投げる代わりに、ティーの上に置いたボールを打つことで、障害のある人、高齢者、子ども等、幅広い層の参加を容易にしています。

2 実施内容

人間福祉学科のジョブコーチ養成課程で学ぶ4・3年生で実行委員会を結成し、準備と当日運営にあたりました。多摩地域で障害者雇用に取り組む企業にお声がけし、オリンパスサポートメイト株式会社、株式会社ベネッセビジネスメイト、東芝ウィズ株式会社、株式会社富士電機フロンティア、東電ハミングワーク株式会社、株式会社ビジネスプラスの6社に参加頂きました。



数回の実行委員会で打ち合わせを行った後、多摩祭の2日目、10月30日（日）に大妻女子大学多摩キャンパス、人口芝グラウンドにおいて「令和4年度 大妻杯Tボール交流大会」を開催しました。3チーム2ブロックでリーグ戦を行い、各ブロックの1位のチームが総合優勝を争いました。実行委員の3・4年生は運営に関わる裏方仕事を行い、授業で募集した2年生が各チームに入って特例子会社の方々と一緒にプレーをしたり、応援をしたりして、スポーツを通じた自然な交流を楽しみ、大会は大いに盛り上がりました。

3 考察

ボランティアとして各チームに入った学生は、これまで新型コロナウイルスの影響で、福祉現場の見学やボランティア等の機会がとて限られていた学年です。実施後のアンケートでは、「最初は緊張したが沢山話しかけてもらって楽しむことが出来た」「普段の仕事の話を聞かせて貰って自分も頑張らなければと感じた」「ジョブコーチの仕事にますます興味が高まった」など、授業では得られない経験が出来た喜びが表現されていました。また、参加企業からも多くのコメントが寄せられ、特に準備、運営を仕切った実行委員の学生に対しては、「熱意と真面目さを感じた」「企業としてこのようなイベントを作れる人材を欲している」など高く評価する意見を頂くことが出来、大学と参加企業の双方にとって意義のあるプロジェクトとなったと感じます。最後に、本大会の開催にあたり多大なご協力を頂きました多摩障害者雇用企業連絡会、東京Tボール連携の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

食と環境の調和に向けた食育の推進 ～産官学民連携による実現を目指して～

代表者：短期大学部 家政科 食物栄養専攻 教授 堀口 美恵子

【目的】

「食と環境の調和」に着目した食育活動を産官学民連携で取り組み、持続可能な食を支える食育、及び、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進する体制を千代田区で実現することを目指した。

【主な活動内容】

1) 千代田区との主な連携活動

- ①千代田区社会福祉協議会公認の子育てサロン登録団体「就学準備教室 りりーふ」主催の「千代田こどもの芸術祭」に運営協力者として参加し、食育活動を行った。パネルシアター公演や野菜マグネット作り等を通じ、食と環境の大切さについて楽しく伝えることができた。
- ②ちよだボランティアセンター登録団体「千代田ママのわ」主催の「親子料理教室」へ、お月見をイメージしたレシピ（お焼き2種・海老しんじょのお吸い物）を提供し、子ども達が食材を無駄なく使うことや効率的な調理操作について関心を持ってもらうことができた。
- ③千代田区主催の「アーバニスト@千代田」の一環として、「身体を動かす！一緒に楽しむ！つながる！合同体験会」を本学アリーナで2回実施した。「千代田区立障害者福祉センター えみふる」、「上智大学インカレボランティア団体 シャクル」、「一般社団法人エスコートダンス協会」、「大妻女子大学食育ボランティアグループ ピーチ」のアーバニスト4者によるボッチャ、ウォーキングサッカー、エスコートダンス、和ぐるみ作品作りを通じ、区民の心身の健康づくりに寄与することができた。
- ④千代田区地域コミュニティ醸成支援事業である「ちよだコミュニティ ラボライブ！2023」に参加した。区内団体同士で意見交換を行うと共に本プロジェクトの成果の一部を発表し、評価を得ることができた。

2) その他の活動

- ①「大妻和食アカデミー」を本学調理室で2回実施した。米と海苔がテーマの回では、新米や海苔に関する講座や食べ比べ等を通じ、古来より環境に配慮して生産されてきた米や海苔について理解を深めて頂くことができた。魚がテーマの回では魚食と環境に関する講座や蒲鉾作り等を通じ、水産業とSDGsとの関連について理解を深めて頂くことができた。
- ②都内の子ども食堂で、食育活動を3回実施した。規格外として廃棄されてしまう食材を活用した弁当の提供を通じ、食と環境の大切さを伝えることができた。
- ③「大妻祭2022」と「大妻さくらフェスティバル2023」においても、食と環境の調和に向けた食育活動を行うと共に本プロジェクトの成果の一部を発表し、評価を得ることができた。

【まとめ】

身体と地球に優しい和食への関心を高めることも含め、産官学民連携により食と環境の調和に向けた食育を推進し、区民の心身の健康増進に寄与することができた。また、食を通じて人々の健康と幸福に貢献する栄養士を目指す学生が主体的に取り組む本活動は、学生の学習意欲向上やキャリアデザインにつながる事が期待された。

地域の多世代がつながるみそ作りプロジェクト

代表者：短期大学部 家政科 食物栄養専攻 准教授 富永 暁子

【はじめに】

本プロジェクトの目的は、多世代交流による「みそ作り」の食育活動を通じた地域の活性化である。令和3年度より本プロジェクトを実施しており、キャンセル待ちがでるほどの反響であった。「手作りみそ講座」では、1616（元和2）年創業、江戸時代には将軍家に味噌を納めていたという神田明神の「三河屋綾部商店」から、「千代田区産の麴」をはじめとした大豆など材料を調達するとともに、みそ作りに関する多くの助言を得ることができた。昨年度はオンラインでの開催であったが、今年度は対面で実施し、内容をさらに発展させ、千代田区在住・在勤者を対象に区内で作られた麴を使用した手作りみそ講座を2回実施した。また昨年度作ったみそが食べごろを迎えるころにSNSを利用して熟成状態のフォローアップをした。

【プロジェクトの内容】

1. 大豆を栽培・収穫体験（7月～11月 学内ハーブ園の一部使用）

昨年と同様に、7月～11月にかけて大豆を栽培した。収穫した大豆は80粒程で、1月に実施したみそ作り講座用に一部使用し、残りは次年度の大豆栽培用の種子とした。

2. 昨年度作成した手作りみそのフォローアップ・ネットワークづくり（8月～）

みその発酵・熟成状況のフォローを目的に、InstagramとLINEを立ち上げた。

3. 手作りみそ講座①（11月5日（土）14時～16時）「合わせみそ作りとみそ料理の試食」

0才から70代まで、スタッフを合わせて約60名が参加した。0.6%塩分で調整したウェルカムみそ汁を飲んだ後、白みそと赤みそで合わせみそを作り、その後の8品のみそ料理の試食、本学学生による「みそに関する食育クイズ」で多世代交流をした。



4. 手作りみそ講座②（1月28日（土）14時～、15時～）「手作りみその仕込み」

抽選により決定した参加者とスタッフ合わせて約70名がみそ作りに参加した。みその作り方のレクチャーを受けた後、小グループに分かれ、スタッフの進行に合わせてみそ作りをし、多世代交流をした。今回はコロナ対策で時間を短縮し、さらに2回に分散して実施した。

【参加者の感想より】

みそが体に良いことがわかった、こどもの食育につながる、クイズ形式での学びが良かった、多世代で一緒に学んでいる会場の空気感が良かった等があり、今後も区内の調理室で出張講座を検討して欲しいなど継続を求める声が多くみられた。

【今度にむけて】

区内の組織や企業などと連携し、場所や原料の提供をしてもらうとともに、みそ作り経験者によるスタッフの養成をし、さまざまなコミュニティでみそ作りを通して多世代交流できるような仕組みを提案したい。

プロジェクト構成員：小野友紀、石井恵子、小林雪子、ワゲラ久美子、食物栄養専攻の1・2年生及び卒業生有志

香辛料・植物性素材を教材とした 食育推進プロジェクト

代表者：短期大学部 家政科 食物栄養専攻 専任講師 田口 裕基

1. はじめに

本プロジェクトは「香辛料を自ら調合し、ミックススパイスやシーズニングを体験するプログラム、及び植物性素材を用いたクラフト作りのプログラムを提供する。体験プログラムでは、調合した香辛料を調理・食することの楽しみ、クラフトを作成し、日用品として活用する楽しみを通して、食、農業、環境と自らの食生活との関わりについて、深く学ぶ機会を持つことができる」ことを狙いとして開始しました。また、本プロジェクトが香辛料をはじめとする植物性素材など農産物を主に扱うことから、①農業の6次産業化、②持続可能な開発目標（SDGs）の体现、および③対象地域の活性化、を特に意識して活動計画を策定しました。

2. 2022 年度活動の概要

2022 年 9 月、本校に来校された世羅高校の皆さんにミックススパイス調合体験プログラムを実施しました。また、同月、世羅町役場（行政）、農産物の生産者さん（民間）への訪問を実施し、今後の連携活動のあり方などについても協議しました。また、「世羅町の特産品を香辛料でもっとおいしく！」と題し、世羅町産農産物の振興策について、ゼミのテーマとして学生と共に取り組みました。ゼミでの活動内容については、「大妻祭 2022」にてポスター展示するとともに、11 月に開催された「世羅町役場・農産物の生産者－大妻女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻 オンライン交流会」においても学生発表を実施しました。

なお、2023 年 3 月開催の「さくらフェスティバル 2023」では、本校が所在する千代田区の小学生を中心に、ミックススパイス講座を開催する予定です。

3. おわりに

今年度は未だ新型コロナウイルス感染症の影響下にあるものの、世羅町との交流やイベントの対面形式での開催など、人と人との交流、会場での一体感、満足感の大切さ、香辛料の触感、色、香り、風味などを体感することの重要性を改めて痛感する一年だったと思います。まだまだ新型コロナウイルスによる社会情勢の変化については、未知のことが多いですが、本年度の内容をまた次年度以降の活動に役立てていきたいと考えております。

地域連携プロジェクト「地域に根ざす 図書館認知症カフェプロジェクト」報告

代表者：教職総合支援センター 常勤特任准教授 深水 浩司

本プロジェクトは、多摩市立図書館、大妻女子大学教員と図書館サークル OLIVE、多摩校図書館司書課程受講者、社会医療法人河北医療財団多摩事業部 天本病院勤務医師と日本うつセンター 勤務精神保健福祉士・公認心理士との連携によって企画・実施された図書館カフェである。主催は多摩市立図書館で「高齢者と家族のための図書館カフェ」と題し、本プロジェクトが共催、医療従事者は協力という体制をとった。参加者募集は多摩市立図書館と本プロジェクトで分担しポスターを作成し地域掲示板等に貼り出し、合わせて多摩市広報誌『たま広報』や Web での宣伝も行った。10組限定での募集だったが、実際には4組の参加となった。日程は以下の通りである(参加者は2回とも参加できることを条件に募集)。

2022年 9月11日(日) 研修 (医師、心理士から高齢者の特徴や接し方を学ぶ)
10月22日(土) 1回目 興味や好きな本について語り、資料(本)の選択と貸出
11月 5日(土) 2回目 貸出本の感想や、読書・図書館についてディスカッション

参加した学生は6名。カフェ開催に先立ち、参加者が当日メモとして使えるように、和紙と麻糸で作成した「和綴じノート(B5)」を学内で作成した(参加者には大好評)。研修を経て、初日は参加者とコミュニケーションをとりながら、本人の興味を引き出したうえで図書館内の資料(本)選択や貸出等のサポートを行った。2回目は、まず参加者と学生とで読後感想や考えたことなどを話し合い、それを全員で共有した上で異なった視点からの意見や感想を語り合った。

参加者からの感想では、若者と触れ合うことができた感動や、図書館や本を通じて多くの人と交流できたことの喜び、自分が読んだ本について皆が語り合うことで、新たなものの見方や情報を得ることができた新鮮さなどが述べられていた。さらにこのカフェを今後も続けてほしいとの要望が全参加者からあった。学生の感想も同様で、普段触れ合う機会が少ない高齢者とのコミュニケーションが特に勉強になったとの感想が多かった。

本プロジェクトにおいて、地域住民と本学図書館学課程に関係する学生や教員、多摩市立図書館、近隣の医療従事者との連携が「図書館というシステムを通じて」取れたことは有意義である。学生が本学の教育で得たことをもとに地域への貢献ができるとともに、地域や社会の現状を肌と感じそれを糧に更に学び、経験を豊かにできる地域との連携や貢献の形がここにあると思えた。

最後にこの成果は、日本ポジティブサイコロジー医学会 第11回学術集会(2022年12月3日)において『図書館を利用した高齢者カフェのプログラム(Tカフェ)の開発と実践報告～高齢者のウェルビーイングを高める～』としてポスター発表されている。

大妻古本募金

読み終えた本を寄付しませんか？

不要となった書籍を地域連携・地域貢献を目的とする
活動資金として使用させていただきます。

「大妻古本募金」は、みなさまのお手元にある不要になった書籍の売却額が株式会社バリューブックスを通じて全額大妻学院への寄付金となる仕組みです。大妻さくらフェスティバル 大妻古本募金（2023年3月31日（金）まで受付）でいただいた寄付金は、大妻女子大学地域連携推進センターの活動に使用させていただきます。

※未成年者の方は必ず保護者の方にご相談いただき、本学の趣旨にご賛同いただいた上で、ご寄付いただけますようお願い致します

大妻古本募金の対象となるもの

2010年以降に発行された書籍

2010年以前に出版された本のほとんどがお値段をつけることができないため、「2010年以降に発行された書籍」と限定させていただきます。

大妻古本募金申込

WEBでお申し込みください。

<https://www.charibon.jp/donation/action.cgi?id=265>

お申し込みいただく際、入力画面の「集荷先情報」の「氏名」の前にアルファベットの「A」を入力してください。氏名の前に「A」が入力されている方の古本募金は、大妻さくらフェスティバルによるご寄付として頂戴いたします。



ご自宅で段ボール箱に詰めてWebで申込みをするだけ。**5点以上から上限3箱までなら送料はかかりません。**
お部屋のお掃除で見つかった読まなくなった本をご寄付ください。

※買い取り価格は需要と供給で決まるため、寄付していただいた本の状態が良くても値段がつかないこともありますので、ご了承ください。

※大妻古本募金では、値段がつかない本を運営会社の株式会社バリューブックスを通じて国内の福祉施設、図書館、海外の教育研究機関に寄贈します。

※税制上の優遇措置（寄付金控除）の対象となります。ご希望される場合は確定申告が必要となりますのでお手続きをお願いします。



大妻中野高等学校 2年 坂本 美羽



大妻嵐山中学校 2年 本田 花凧



大妻中野中学校 2年 安藤 緋奈乃



大妻嵐山高等学校 1年 中島 初菜